

令和6年度

全国学力・学習状況調査結果

令和6年9月
小樽市教育委員会

令和6年度

全国学力・学習状況調査結果

令和6年度全国学力・学習状況調査は、小学校第6学年、中学校第3学年の全児童生徒及び市内29校を対象に実施されました。

小樽市教育委員会では、令和元年度より、本市の子どもたちの課題解決のための「小樽授業づくりの5つのSTEP!!」を示し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を図るとともに、学習意欲の向上と学習習慣の確立をめざし、各種研修会などを通じて指導内容や指導方法の工夫改善に努めております。

また、本調査は子どもたちの学力・学習状況を把握する大切な資料の一つであると捉えており、調査結果から見えてくる課題等については、学校間の序列化や過度な競争につながらないように配慮しながら、地域、保護者の皆さんに説明する責任があるものと考えます。

本書では、調査結果のポイントや児童生徒質問調査結果と平均正答率との相関を示しております。今後は、「小樽市小中学校学力向上検討委員会」を開催し、授業改善の方策についての協議を通して改善策を示し、学力向上の一層の充実を図ってまいります。

I 調査について

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査の対象

小学校第6学年・中学校第3学年の全児童生徒

3 調査の内容

(1) 教科に関する調査 [国語、算数・数学]

出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれ次の①と②を一体的に問うものである。また、出題形式として、記述式の問題を一定割合で導入している。

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ②知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

(2) 質問調査

児童生徒質問調査	学校質問調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問調査	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問調査

4 調査実施日 令和6年4月18日(木)

5 4月18日(木)に調査を実施した学校・児童生徒数

	学校数(校)	児童生徒数(人)
小学校	17	572
中学校	12	634
合計	29	1,206

※ 上記期日以外に調査を実施した児童生徒は集計には含まれていない。

II 教科に関する調査結果等について

1 教科に関する調査

<令和6年度調査 各教科の平均正答率(%)及び平均正答数(問)>

		小学校		中学校	
		国語	算数	国語	数学
平均正答率	小樽市	67	59	55	47
	北海道	67	61	58	51
	全国	67.7	63.4	58.1	52.5
平均正答数	対象問題数	14	16	15	16
	小樽市	9.4	9.5	8.3	7.5
	北海道 (北海道との差)	9.3 (+0.1)	9.7 (-0.2)	8.6 (-0.3)	8.2 (-0.7)
	全国 (全国との差)	9.5 (-0.1)	10.1 (-0.6)	8.7 (-0.4)	8.4 (-0.9)

※平成29年度から、小樽市及び北海道の平均正答率については文部科学省から整数値で結果が提供されていますので、整数値で結果を表示しています。

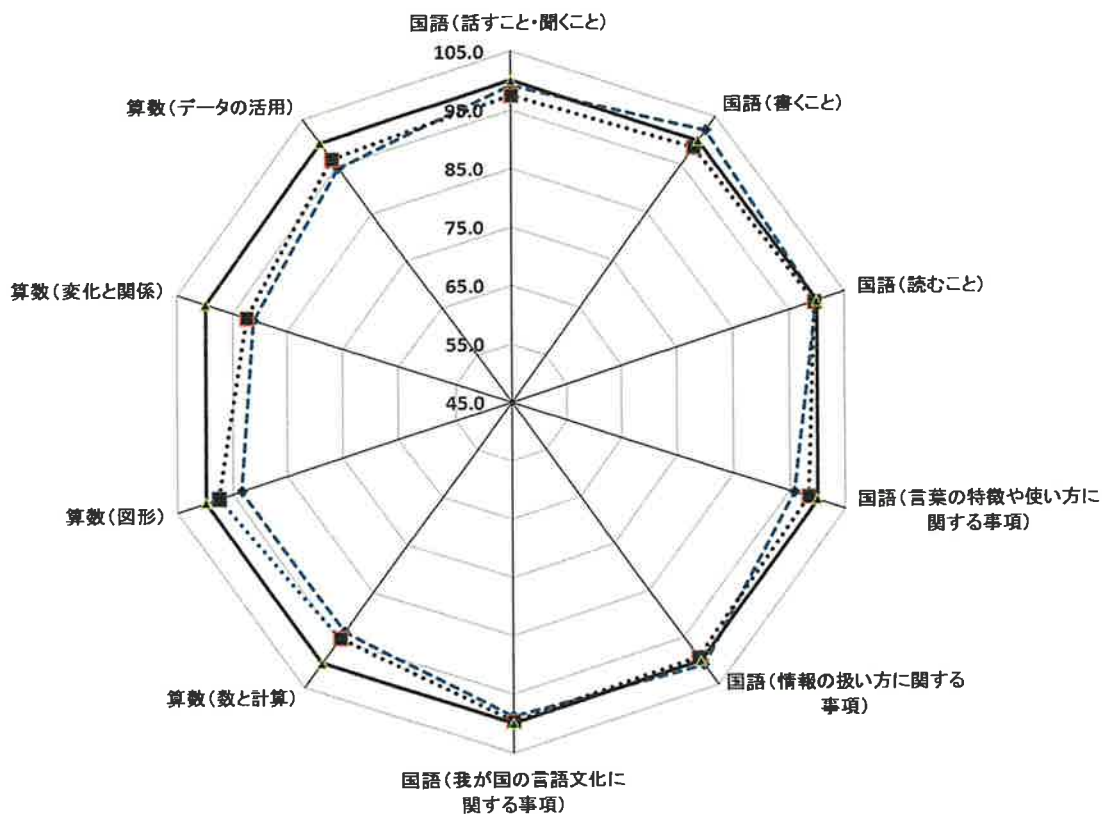
※本資料で取り扱われている「北海道」及び「全国」とは、全て公立小中学校のことを指します。

2 令和6年度全国学力・学習状況調査結果の各領域等の状況

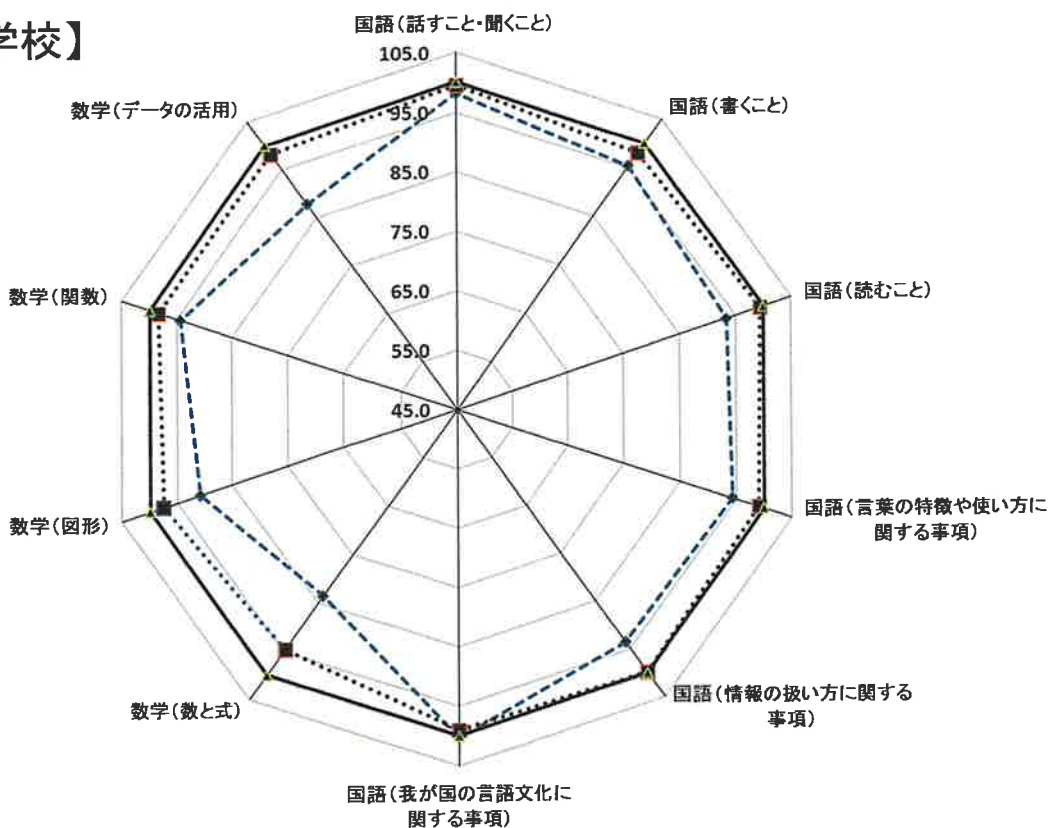
※数値は、全国の平均正答率を100とした場合の観点別の達成の状況を表しており、「それぞれの平均正答率÷全国の平均正答率×100」で算出しております。

【小学校】

---小樽市 -.-北海道 -.-全国

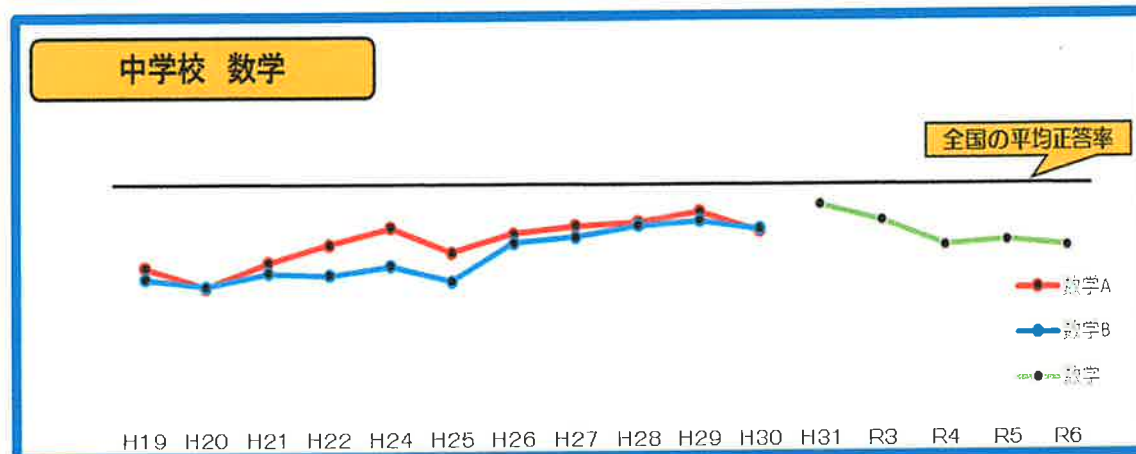
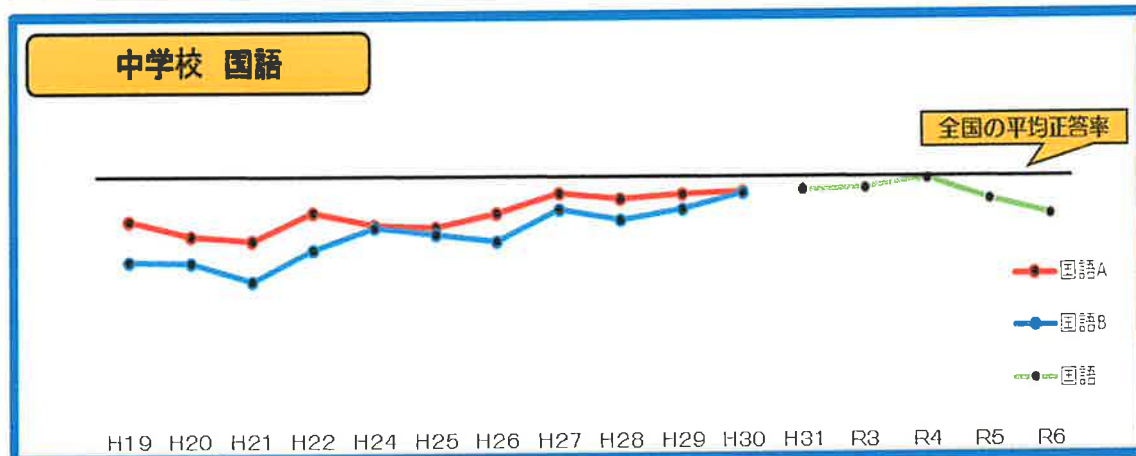
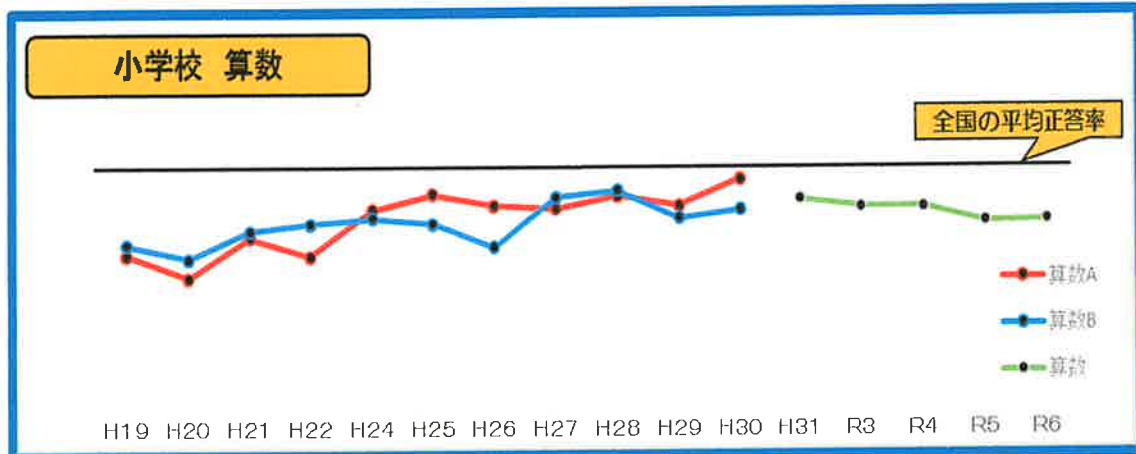
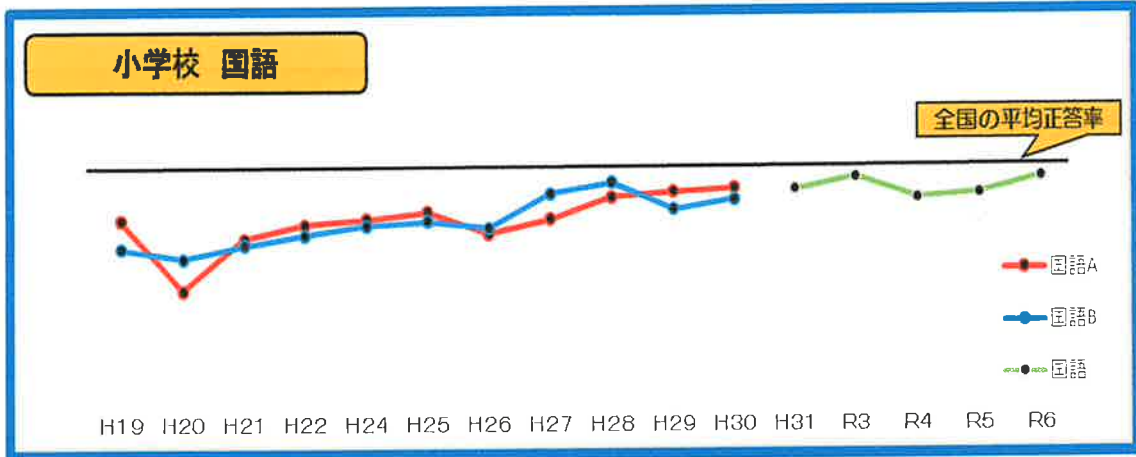


【中学校】



3 全国の平均正答率との差の推移

※全国の平均正答率と小樽市の平均正答率との差を折れ線グラフで表しております。なお、平成31年度からは、AB問題の区別がなくなりました。



小学校国語

【平均正答率】

	児童数 (人)	平均正答数 (問)	平均正答率 (%)
小樽市	571	9.4 / 14	67
北海道	34,531	9.3 / 14	67
全国	947,364	9.5 / 14	67.7

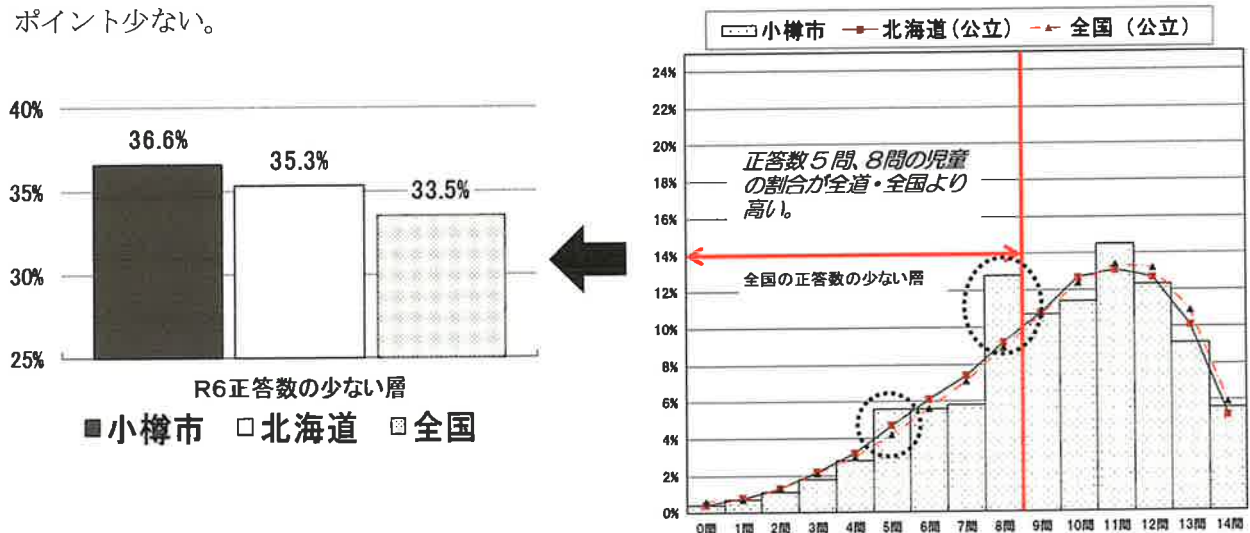
【分類・区別集計結果】

※□は、全国平均以上
下線は、全道平均以上

分類	区分	対象 問題数 (問)	平均正答率(%)			
			小樽市	北海道	全国	
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	4	61.7	63.3	64.4
		(2) 情報の扱い方に関する事項	1	<u>87.6</u>	86.3	86.9
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	1	73.7	74.3	74.6
思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	<u>59.3</u>	58.3	59.8	
	B 書くこと	2	<u>69.9</u>	67.4	68.4	
	C 読むこと	3	<u>70.6</u>	70.4	70.7	

【「正答数分布状況」及び「全国の正答数の少ない層・多い層に含まれる児童の割合】

正答数の少ない層（正答数8問以下）に含まれる児童の割合が36.6%で、全国と比べ3.1ポイント多い。また、正答数の多い層（正答数12問以上）に含まれる児童の割合は、27.0%で、全国と比べ、3.0ポイント少ない。



【問題別調査結果の概要】（◇正答率が高い問題 ◆正答率が低い等課題がみられる問題）

- ◇【「高山さん」が文章に書くことを決めるために、どのように考えたのかについて説明したものとして、適切なものを選択する】問題（第5学年及び第6学年「書くこと」）は、80.7%の正答率（全国は80.3%）です。[大問2一（1）]
- ◇【「高山さんのメモ」の書き表し方の説明として、適切なものを選択する】問題（第5学年及び第6学年「情報の扱い方に関する事項」）は、87.6%の正答率（全国は86.9%）です。[大問2一（2）]
- ◇【「物語」を読んで、心に残ったところとその理由をまとめて書く】問題（第5学年及び第6学年「読むこと」）は、78.1%の正答率（全国は72.6%）です。[大問3三]
- ◆「オンラインで交流する場面で【和田さんが作成したメモ】がどのように役立ったのかを説明したものとして、適切なものを選択する】問題（第5学年及び第6学年「話すこと・聞くこと」）は、59.2%の正答率（全国は63.8%）です。[大問1三]
- ◆【「高山さんが書いた文章」の空欄に入る内容を、【高山さんの取材メモ】を基に考えて書く】問題（第5学年及び第6学年「書くこと」）は、59.0%の正答率（全国は56.6%）です。[大問2二]
- ◆「文章中の____部「きょうぎ」（競技）を、漢字を使って書き直す】問題（第5学年及び第6学年「言葉の特徴や使い方に関する事項」）は、35.4%の正答率（全国は43.4%）です。[大問2三ア]

国語における課題

- ・ 目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討すること。
- ・ 目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるようにするための書き表し方を工夫すること。
- ・ 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うこと。

小学校算数

【平均正答率】

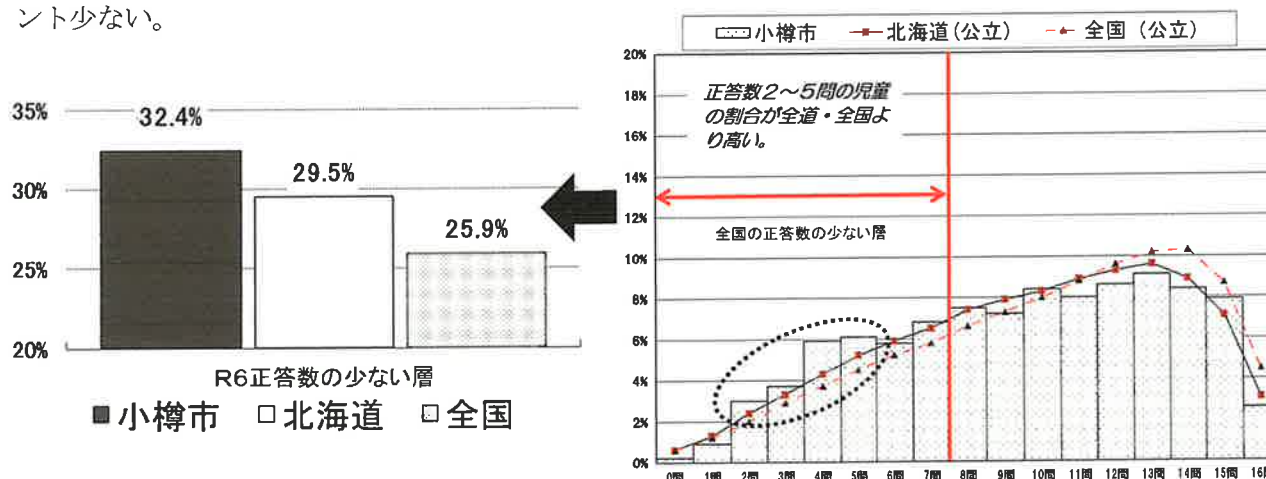
	児童数 (人)	平均正答数 (問)	平均正答率 (%)
小樽市	572	9.5 / 16	59
北海道	34,531	9.7 / 16	61
全国	947,579	10.1 / 16	63.4

【分類・区分別集計結果】

分類	区分	対象 問題数 (問)	平均正答率 (%)		
			小樽市	北海道	全国
学習 指導 要領 の 領域	A 数と計算	6	61.6	62.5	66.0
	B 図形	4	61.9	64.7	66.3
	C 測定	0	—	—	—
	C 変化と関係	3	47.1	47.8	51.7
	D データの活用	4	58.5	59.7	61.8

【「正答数分布状況」及び「全国の正答数の少ない層・多い層に含まれる児童の割合】

正答数の少ない層（正答数7問以下）に含まれる児童の割合が32.4%で、全国と比べ6.5ポイント多い。また、正答数の多い層（正答数13問以上）に含まれる児童の割合は28.0%で、全国と比べ、5.7ポイント少ない。



【問題別調査結果の概要】（◇正答率が高い問題 ◆正答率が低い等課題がみられる問題）

- ◇「はじめに持っていた折り紙の枚数を□枚としたときの、問題場面を表す式を選ぶ」問題（第3学年「数と計算」）は、87.8%の正答率（全国は88.5%）です。[大問1（2）]
- ◇「3分間で180m歩くことを基に、1800mを歩くのにかかる時間を書く」問題（第5学年「変化と関係」）は、69.9%の正答率（全国は70.0%）です。[大問4（2）]
- ◇「円グラフから、2023年の桜の開花日について、4月の割合を読み取って書く」問題（第5学年「データの活用」）は、79.0%の正答率（全国は80.8%）です。[大問5（1）]
- ◆「直径22cmのボールがぴったり入る箱の体積を求める式を書く」問題（第5学年「図形」）は、32.9%の正答率（全国は36.5%）です。[大問3（3）]
- ◆「家から学校までの道のりが等しく、かかった時間が異なる二人の速さについて、どちらが速いかを判断し、そのわけを書く」問題（第5学年「変化と関係」）は、25.3%の正答率（全国は31.0%）です。[大問4（3）]
- ◆「家から図書館までの自転車の速さが分速何mかを書く」問題（第5学年「変化と関係」）は、46.2%の正答率（全国は54.1%）です。[大問4（4）]

算数における課題

- ・ 球の直径の長さや立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すこと。
- ・ 道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述すること。
- ・ 速さの意味について理解すること。

中学校国語

【平均正答率】

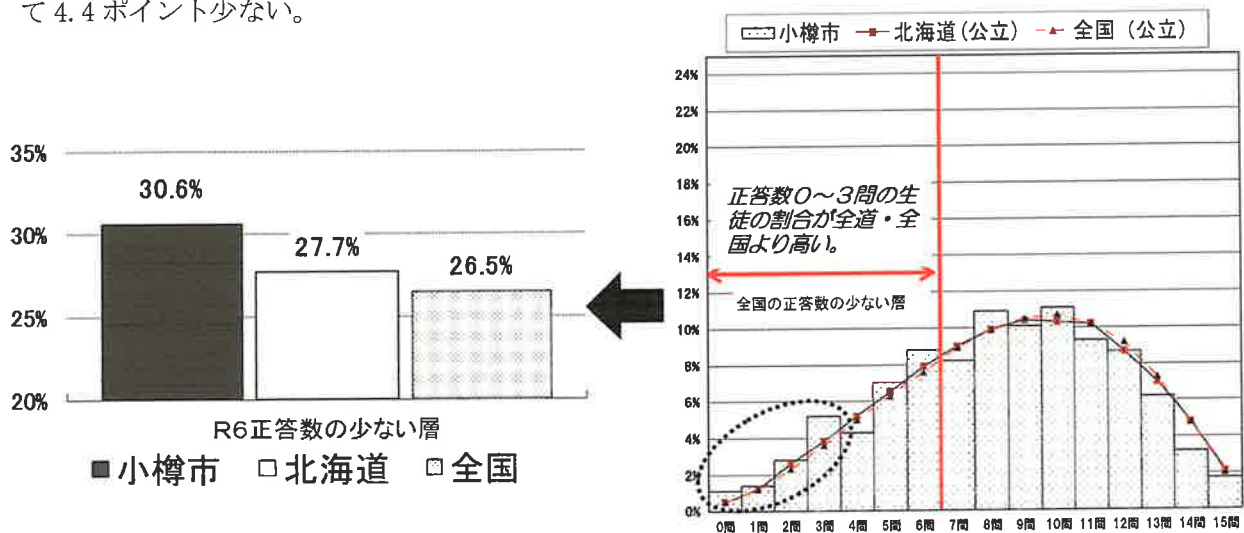
【分類・区分別集計結果】

※□は、全国平均以上

	生徒数	平均正答数	平均正答率(%)	分類	区分	対象 問題数 (問)	平均正答率(%)			
							小樽市	北海道	全国	
小樽市	633	8.3 / 15	55	学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	3	55.8	58.6	59.2
						(2) 情報の扱い方に関する事項	2	55.8	59.5	59.6
						(3) 我が国の言語文化に関する事項	1	75.8	74.8	75.6
北海道	33,614	8.6 / 15	58	学習指導要領の内容	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	57.7	58.5	58.8
						B 書くこと	2	62.2	64.0	65.3
						C 読むこと	4	44.7	47.6	47.9
全国	875,574	8.7 / 15	58.1							

【「正答数分布状況」及び「全国の正答数の少ない層・多い層に含まれる生徒の割合」】

正答数の少ない層（正答数6問以下）に含まれる生徒の割合が30.6%で、全国と比べ4.1ポイント多い。また、正答数の多い層（正答数11問以上）に含まれる生徒の割合は、29.1%で、全国と比べて4.4ポイント少ない。



【問題別調査結果の概要】（◇正答率が高い問題 ◆正答率が低い等課題がみられる問題）

- ◇「話合いの中の発言について説明したものとして適切なものを選択する」問題（第1学年「話すこと・聞くこと」）は、65.2%の正答率（全国は63.2%）です。[大問1一]
- ◇「本文中の情報と情報との関係を説明したものとして適切なものを選択する」問題（第2学年「情報の扱い方に関する事項」）は、73.6%の正答率（全国は75.2%）です。[大問2二]
- ◇「行書の特徴を踏まえた書き方について説明したものとして適切なものを選択する」問題（第1学年「我が国の言語文化に関する事項」）は、75.8%の正答率（全国は75.6%）です。[大問4三]
- ◆「本文中の図の役割を説明したものとして適切なものを選択する」問題（第2学年「読むこと」）は、33.0%の正答率（全国は36.3%）です。[大問2一]
- ◆「本文に書かれていることを理解するために、着目する内容を決めて要約する」問題（第1学年「読むこと」）は、37.9%の正答率（全国は42.6%）です。[大問2四]
- ◆「表現を工夫して物語の最後の場面を書き、工夫した表現の効果を説明する」問題（第2学年「書くこと」）は、45.8%の正答率（全国は49.3%）です。[大問3四]

国語における課題

- ・文章と図とを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈すること。
- ・目的に応じて必要な情報に着目して要約すること。
- ・表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるよう工夫すること。

中学校数学

【平均正答率】

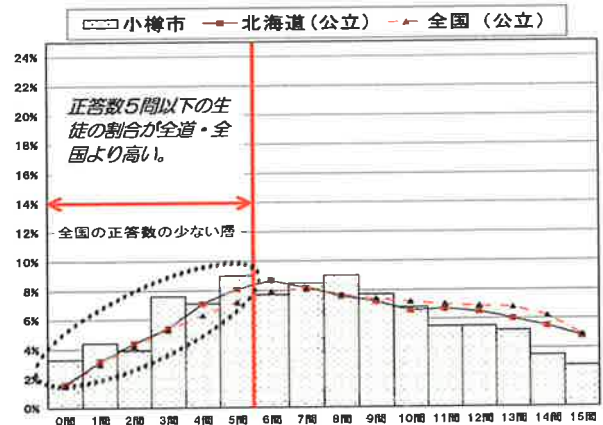
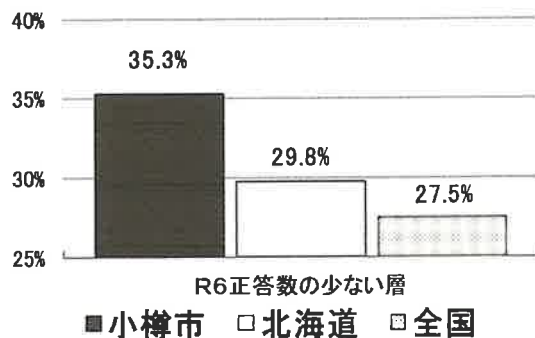
	生徒数 (人)	平均正答数 (問)	平均正答率 (%)
小樽市	634	7.5 / 16	47
北海道	33,598	8.2 / 16	51
全国	875,952	8.4 / 16	52.5

【分類・区分別集計結果】

分類	区分	対象 問題数 (問)	平均正答率 (%)		
			小樽市	北海道	全国
学習指導要領の領域	A 数と式	5	42.7	48.4	51.1
	B 図形	3	36.6	39.3	40.3
	C 関数	4	57.3	59.7	60.7
	D データの活用	4	48.7	54.5	55.5

【「正答数分布状況」及び「全国の正答数の少ない層・多い層に含まれる生徒の割合」】

正答数の少ない層（正答数5問以下）に含まれる生徒の割合が35.3%で、全国と比べ7.8ポイント多い。また、正答数の多い層（正答数12問以上）に含まれる生徒の割合は、19.4%で、全国と比べ、7.9ポイント少ない。



【問題別調査結果の概要】（◇正答率が高い問題 ◆正答率が低い等課題がみられる問題）

- ◇「正三角形の各頂点に○を、各辺に□をかいた図において、○に3、-5を入れるとき、その和である□に入る整数を求める」問題（第1学年「数と式」）は、86.4%の正答率（全国は90.2%）です。
[大問6（1）]
- ◇「ストーブの使用時間と灯油の残量の関係を表すグラフとy軸との交点Pのy座標の値が表すものを選ぶ」問題（第2学年「関数」）は、80.3%の正答率（全国は83.4%）です。[大問8（1）]
- ◇「【結衣さん】がかいたグラフから、18Lの灯油を使い切るような『強』と『弱』のストーブの設定の組み合わせとその使用時間を書く」問題（第2学年「関数」）は、74.3%の正答率（全国は76.9%）です。[大問8（3）]
- ◆「車型ロボットについて『速さが段階1から段階5まで、だんだん速くなるにつれて、10cmの位置から進んだ距離が長くなる傾向にある』と主張することができる理由を、5つの箱ひげ図を比較して説明する」問題（第2学年「データの活用」）は、23.8%の正答率（全国は25.9%）です。[大問7（2）]
- ◆「18Lの灯油を使いきるまでの『強』の場合と『弱』の場合のストーブの使用時間の違いがおおよそ何時間になるかを求める方法を、式やグラフを用いて説明する」問題（第2学年「関数」）は、14.0%の正答率（全国は17.1%）です。[大問8（2）]
- ◆「点Cを線分AB上にとり、線分ABについて同じ側に正三角形PACとQCBをつくるとき、 $AQ = PB$ であることを、三角形の合同を基にして証明する」問題（第2学年「図形」）は、19.6%の正答率（全国は25.8%）です。[大問9（1）]

数学における課題

- ・複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明すること。
- ・一次関数を用いて、事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明すること。
- ・筋道を立てて考え、証明すること。

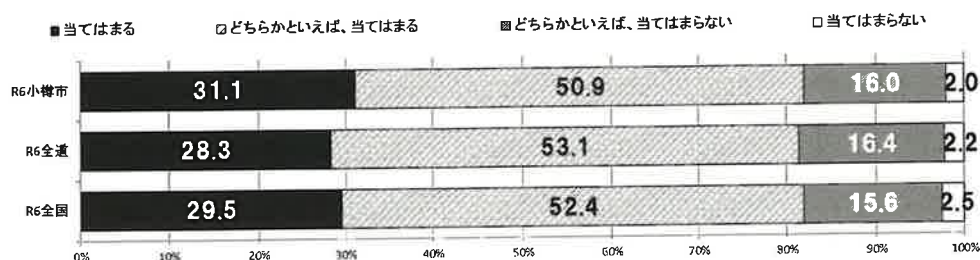
Ⅲ 児童生徒質問調査結果の概要

児童生徒質問調査は、学習意欲、学習方法、生活面などに関する調査であり、主なものを掲載しています。

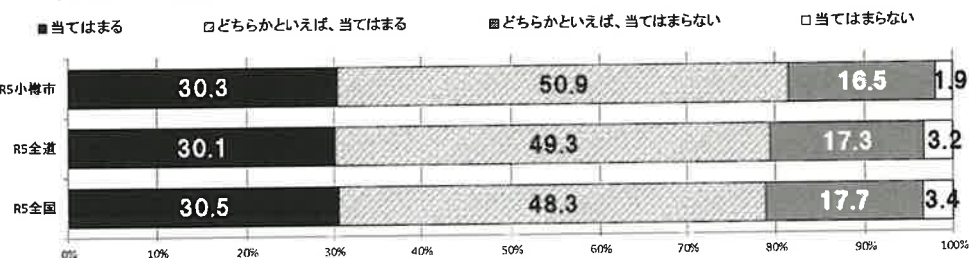
1 5年生まで（中学校は1、2年生まで）に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。

※「その他」「無回答」の数値は記載していません。

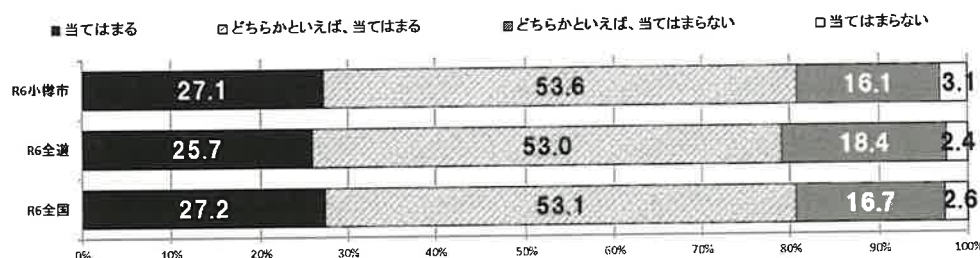
【小学校】＜令和6年度＞



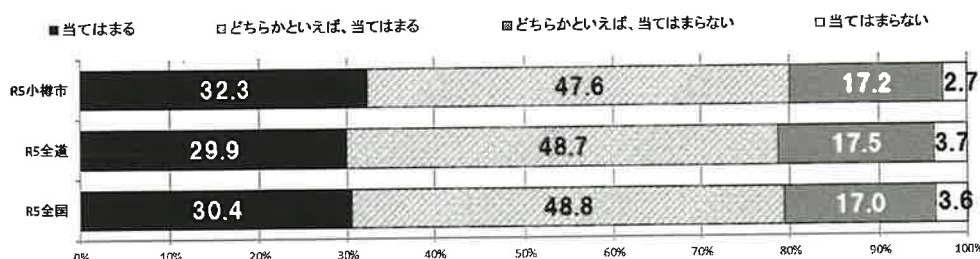
【小学校】＜令和5年度＞



【中学校】＜令和6年度＞



【中学校】＜令和5年度＞



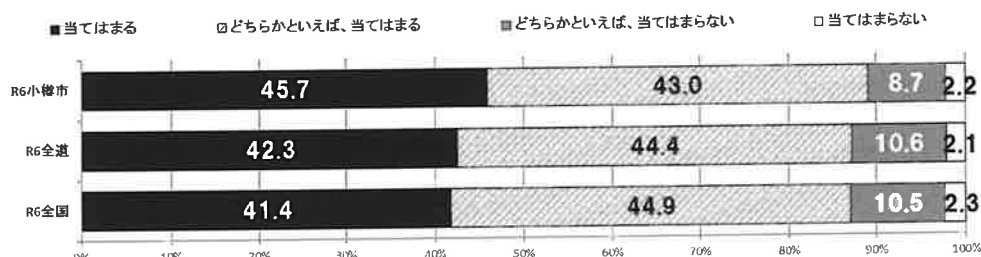
- ・小学校は、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の割合が82.0%で、全国（81.9%）と比べ、0.1ポイント高くなっています。中学校は、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の割合が80.7%であり、全国（80.3%）と比べ、0.4ポイント高くなっています。
- ・学習課題を明確にし、解決に向けて取り組む場面を位置付けるなど、児童生徒を主体とした学習に向けた授業改善が図られていると考えられます。

2 学級の友達との（中学校は生徒の）間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。

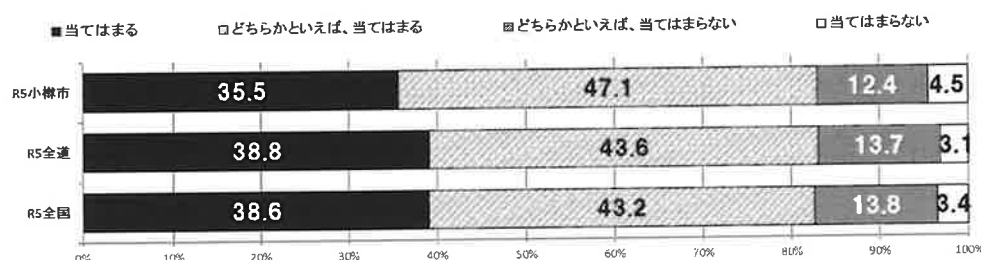
※「活動を行っていない」「その他」「無回答」の数値は記載しておりません。

※下線部は、令和5年度「広げたりすることができていますか」と記載されております。

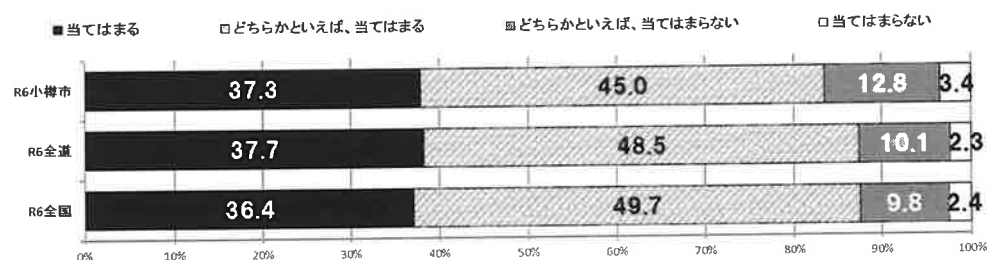
【小学校】＜令和6年度＞



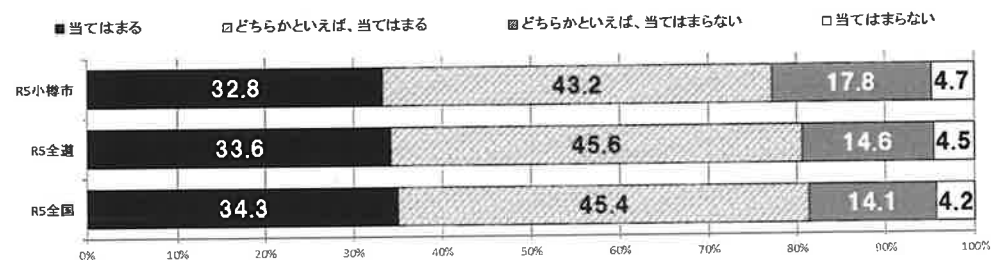
【小学校】＜令和5年度＞



【中学校】＜令和6年度＞



【中学校】＜令和5年度＞

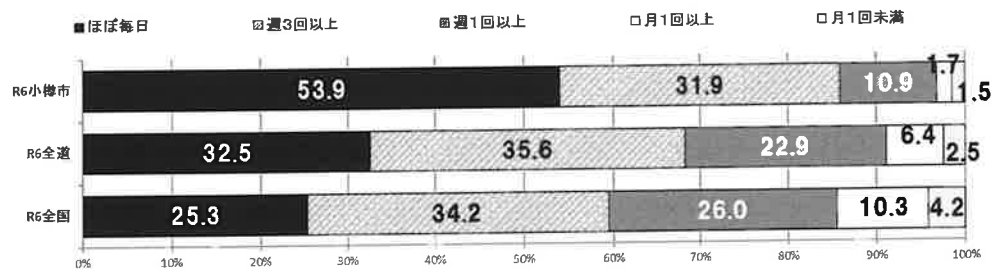


- ・ 小学校は、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の割合が、88.7%で、全国（86.3%）と比べ、2.4ポイント高くなっています。中学校は、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の割合が82.3%であり、全国（86.1%）と比べ、3.8ポイント低くなっていますが、令和5年度より6.3ポイント高くなっています。
- ・ 単元の中に話し合う活動を取り入れ、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した授業改善を引き続き進める必要があります。

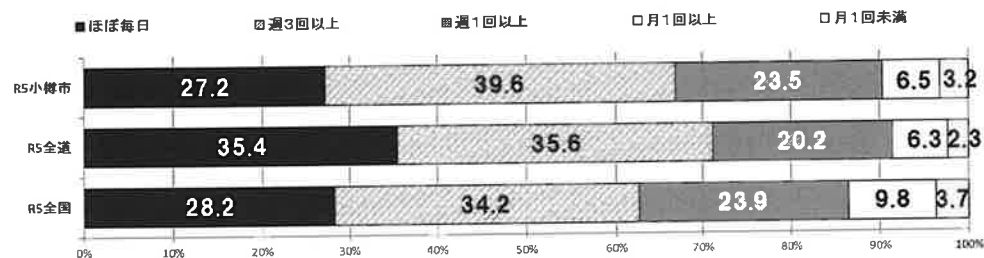
3 5年生までに（中学校は「1、2年生のときに」）受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか。

※「その他」「無回答」の数値は記載しておりません。

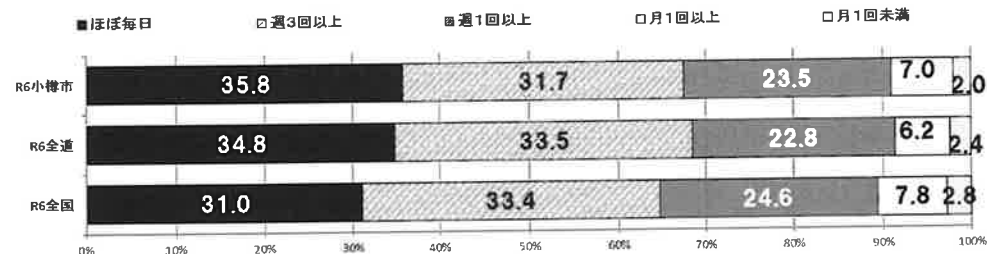
【小学校】＜令和6年度＞



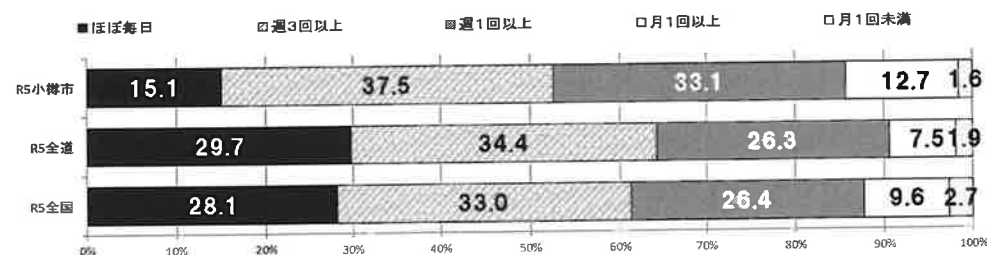
【小学校】＜令和5年度＞



【中学校】＜令和6年度＞



【中学校】＜令和5年度＞

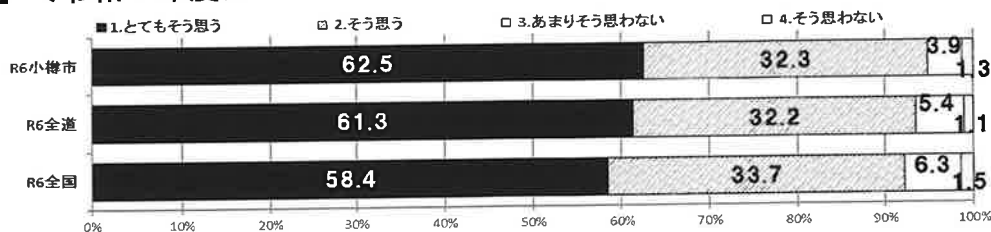


- ・ 小学校は、「ほぼ毎日」の割合が53.9%で、全国（25.3%）と比べ、28.6ポイント高くなっています。中学校は、「ほぼ毎日」の割合が35.8%で、全国（31.0%）と比べ、4.8ポイント高くなっています。
- ・ 各学校では、活用促進に向けた校内研修などに取り組み、授業における1人1台端末の活用が進んでいるものと考えられます。

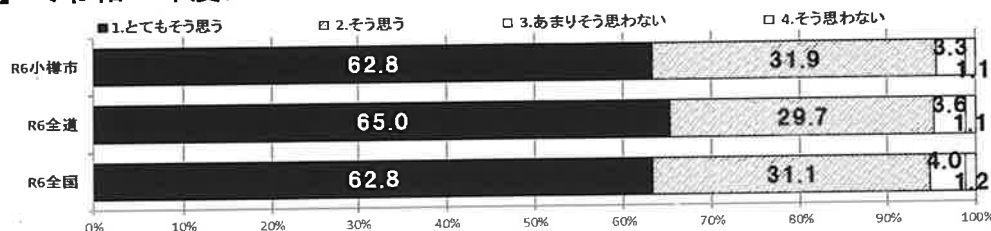
4-1 5年生までの（中学校は1、2年生のときの）学習の中で、PC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。（2）分からないことがあった時に、すぐ調べることができる

※「その他」「無回答」の数値は記載していません。

【小学校】＜令和6年度＞



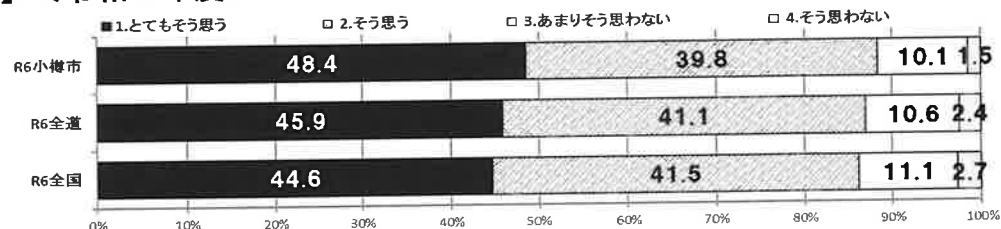
【中学校】＜令和6年度＞



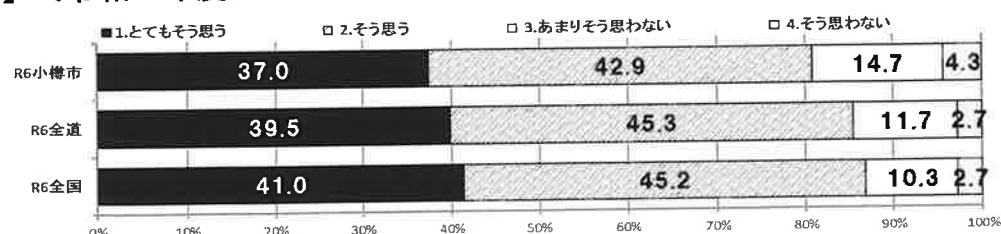
4-2 5年生までの（中学校は1、2年生のときの）学習の中で、PC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。（6）友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる

※「その他」「無回答」の数値は記載していません。

【小学校】＜令和6年度＞



【中学校】＜令和6年度＞



4-1

・「とてもそう思う」「そう思う」の割合が、小学校では94.8%で、全国（92.1%）と比べ、2.7ポイント高くなっており、中学校では94.7%であり、全国（93.9%）と比べ、0.8ポイント高くなっています。

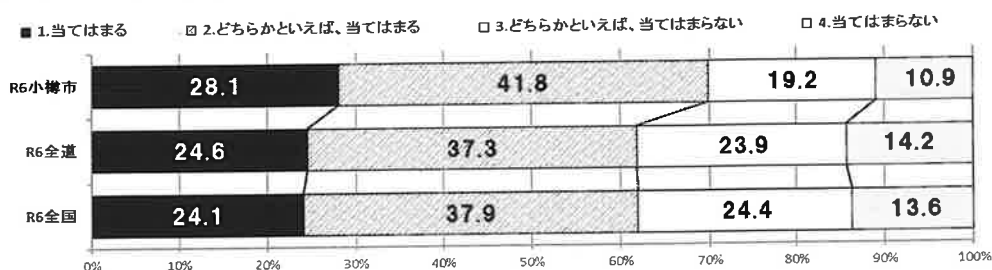
4-2

・「とてもそう思う」「そう思う」の割合が、小学校では88.2%で、全国（86.1%）と比べ、2.1ポイント高くなっており、中学校では79.9%であり、全国（86.2%）と比べ、6.3ポイント低くなっています。

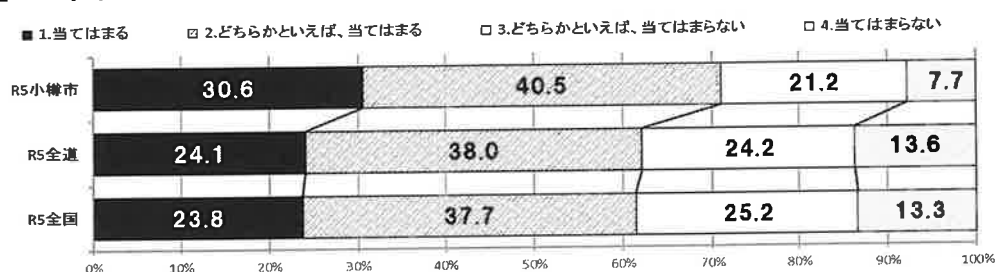
・「学習の中で分からないことがあった時に、すぐに調べる」ことについては、小中ともに全国を上回っております。「友達と考えを共有したり比べたりしやすくなると思う」ことについては全国と比べ、小学校は上回っているものの、中学校はやや下回っており、今後も授業改善に努める必要があります。

5-1 国語の勉強は好きですか。 ※「その他」「無回答」の数値は記載しておりません。

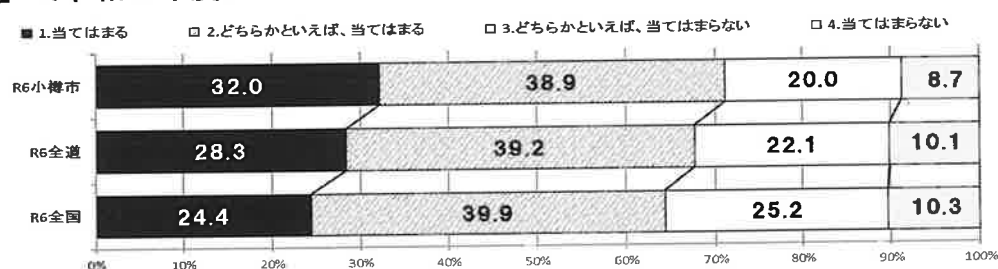
【小学校】＜令和6年度＞



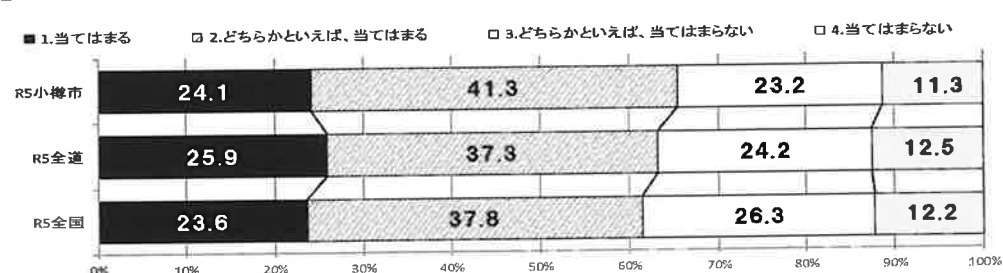
【小学校】＜令和5年度＞



【中学校】＜令和6年度＞



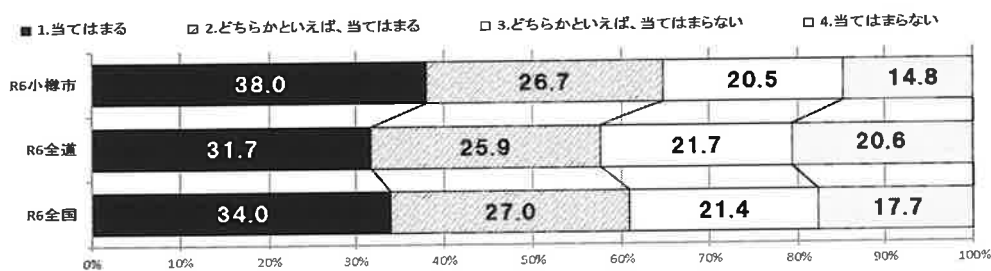
【中学校】＜令和5年度＞



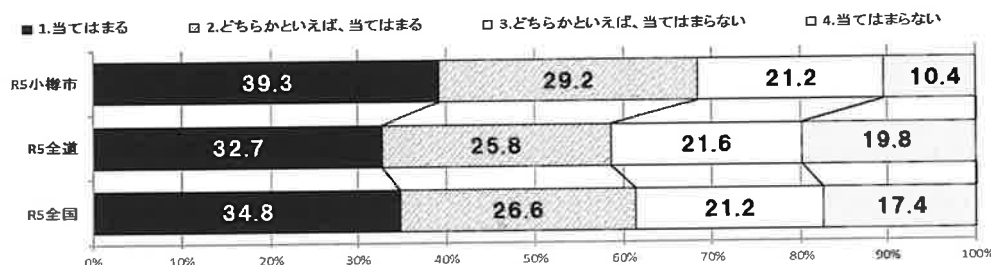
- ・小学校は、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の割合が、69.9%で、全国(62.0%)と比べ、7.9ポイント高くなっています。中学校は、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の割合が70.9%であり、全国(64.3%)と比べ、6.6ポイント高くなっています。
- ・多くの児童生徒が「国語の勉強が好き」と回答していることから、引き続き「わかる」「できる」授業の実現に向けて授業改善を進めていくことが大切です。

5-2 算数・数学の勉強は好きですか。 ※「その他」「無回答」の数値は記載していません。

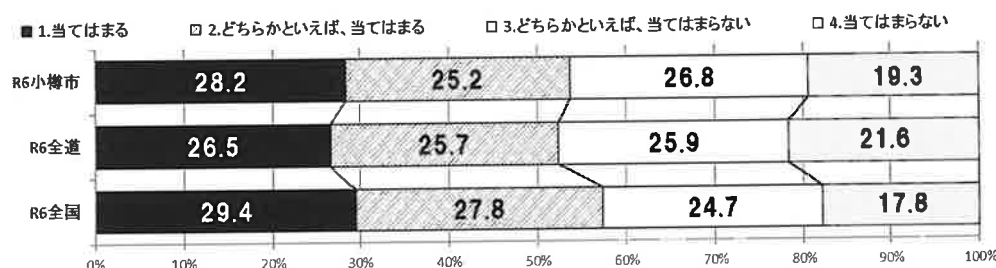
【小学校】＜令和6年度＞



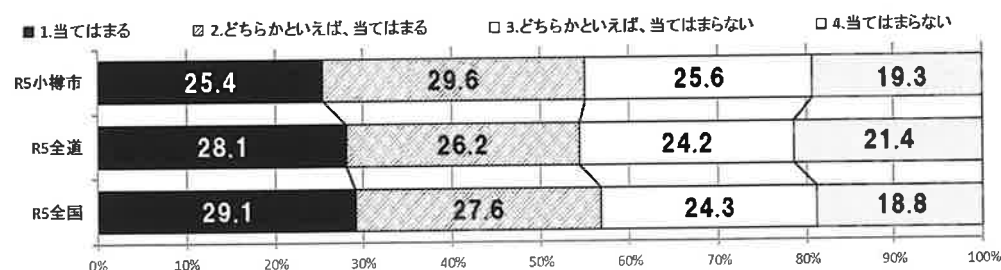
【小学校】＜令和5年度＞



【中学校】＜令和6年度＞



【中学校】＜令和5年度＞

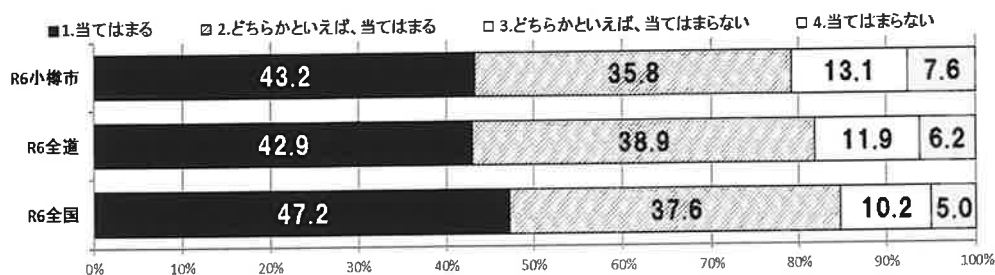


- ・小学校は、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の割合が、64.7%で、全国(61.0%)と比べ、3.7ポイント高くなっています。中学校は、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の割合が53.4%であり、全国(57.2%)と比べ、3.8ポイント低くなっています。
- ・「算数・数学の勉強が好き」と回答する児童生徒がより多くなるために、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を一層進める必要があります。

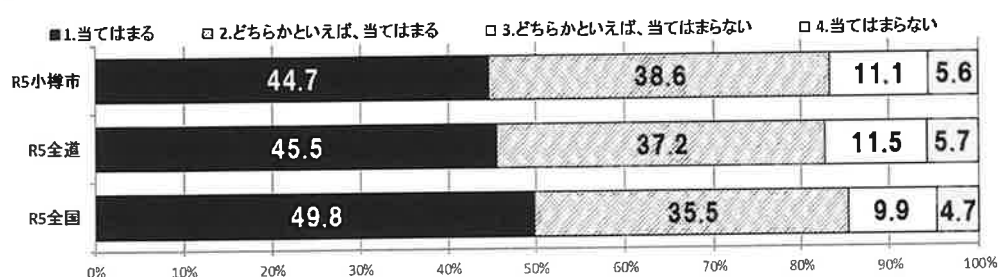
6 学校に行くのは楽しいと思いますか。

※「その他」「無回答」の数値は記載しておりません。

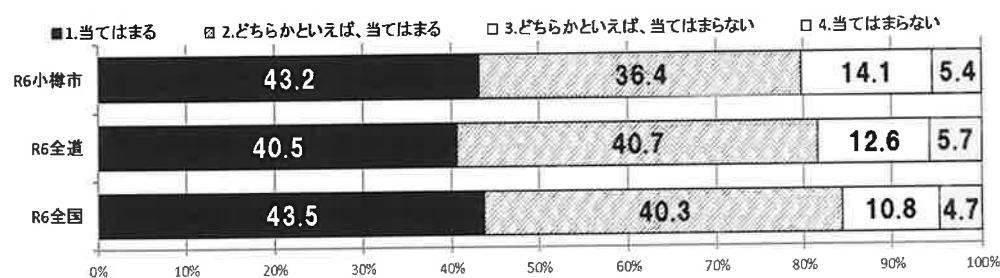
【小学校】＜令和6年度＞



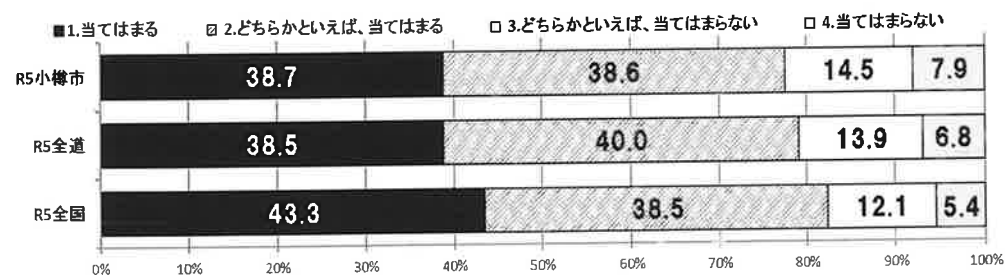
【小学校】＜令和5年度＞



【中学校】＜令和6年度＞



【中学校】＜令和5年度＞

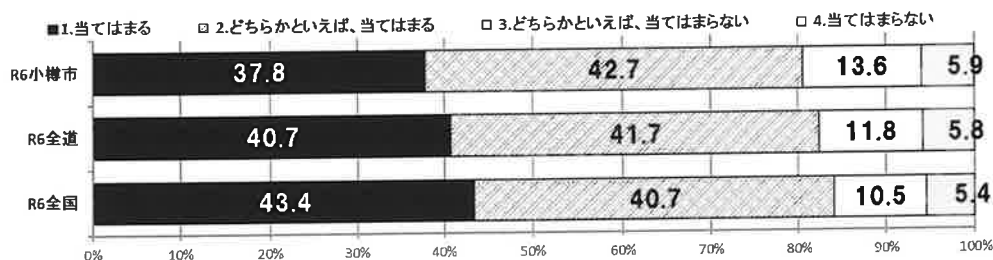


- ・ 小学校は、「当てはまる・どちらかといえば、当てはまる」の割合が、79.0%であり、全国（84.8%）と比べ、5.8ポイント低くなっています。中学校は79.6%であり、全国（83.8%）と比べ、4.2ポイント低くなっています。
- ・ 児童生徒が「わかる」「できる」授業づくりに努めるとともに、一人一人が楽しく学校生活を送ることができる環境づくりに努める必要があります。

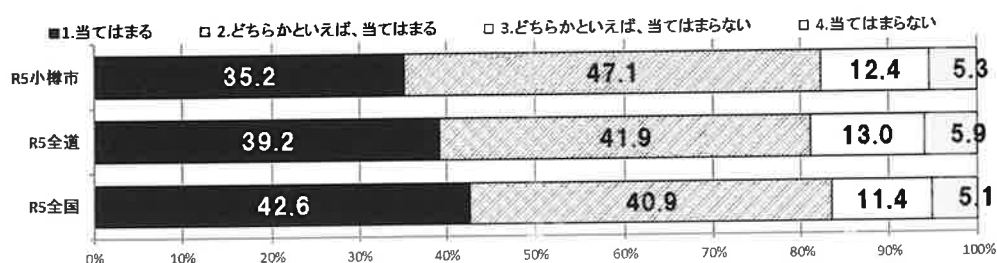
7 自分には、よいところがあると思いますか。

※「その他」「無回答」の数値は記載していません。

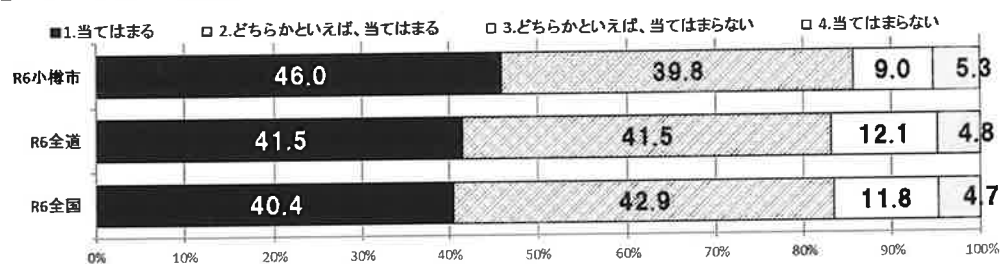
【小学校】＜令和6年度＞



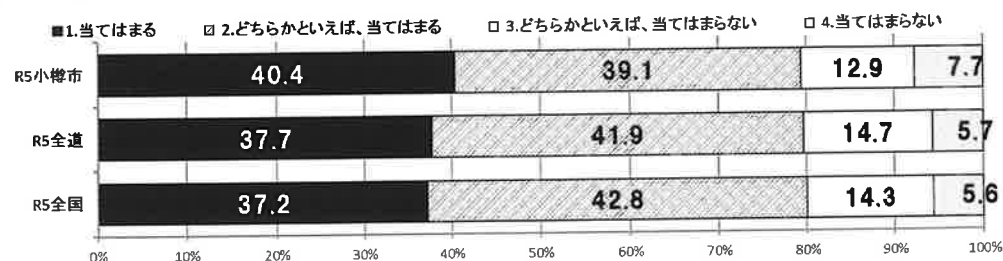
【小学校】＜令和5年度＞



【中学校】＜令和6年度＞



【中学校】＜令和5年度＞

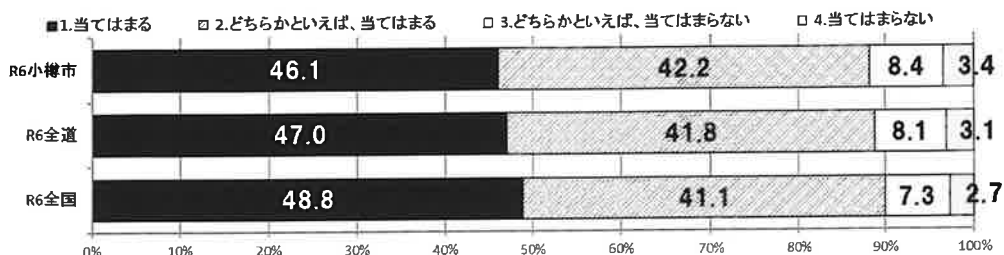


- ・小学校は、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の割合が、80.5%で、全国（84.1%）と比べ、3.6ポイント低くなっています。中学校は、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の割合が85.8%であり、全国（83.3%）と比べ、2.5ポイント高くなっています。
- ・学校生活において、児童生徒の行動や努力を認め価値づけるなど、一人一人が安心して過ごせるような温かい環境づくりに努めていく必要があります。

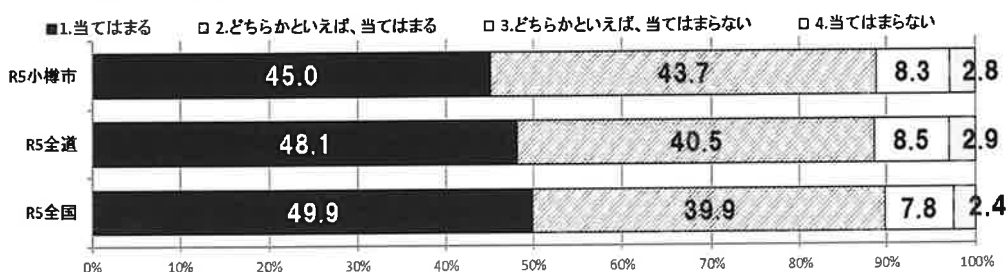
8 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。

※「その他」「無回答」の数値は記載しておりません。

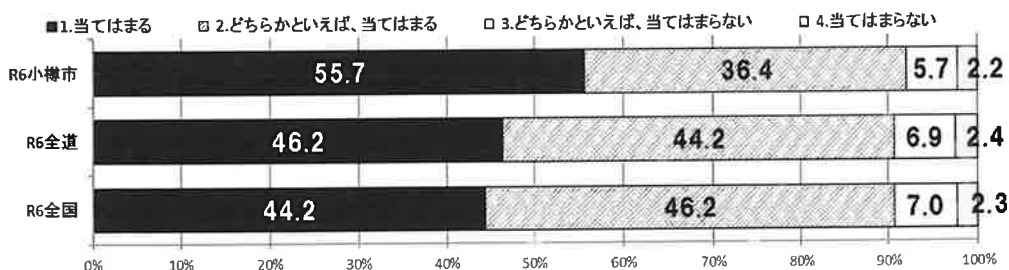
【小学校】＜令和6年度＞



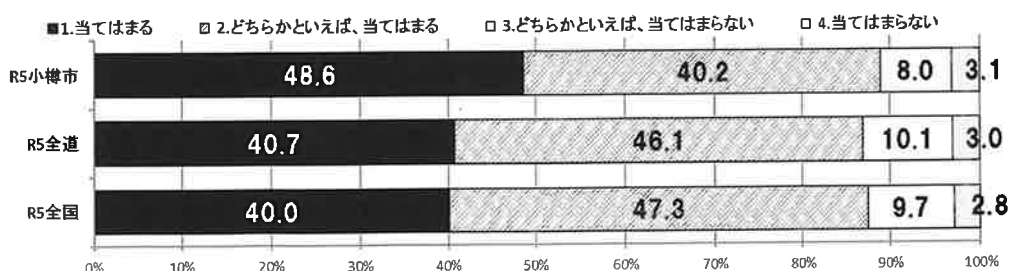
【小学校】＜令和5年度＞



【中学校】＜令和6年度＞



【中学校】＜令和5年度＞

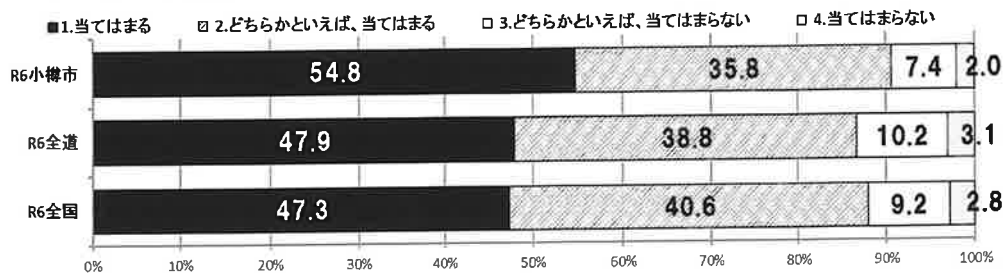


- ・小学校は、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の割合が、88.3%で、全国(89.9%)と比べ、1.6ポイント低くなっています。中学校は、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の割合が92.1%であり、全国(90.4%)と比べ、1.7ポイント高くなっています。
- ・児童生徒一人一人の個性や努力の状況をこまめに見とり、好意に満ちた言葉がけを意識的に行うなど、自己肯定感を高めるためのかわりを小学校段階から継続していくことが大切です。

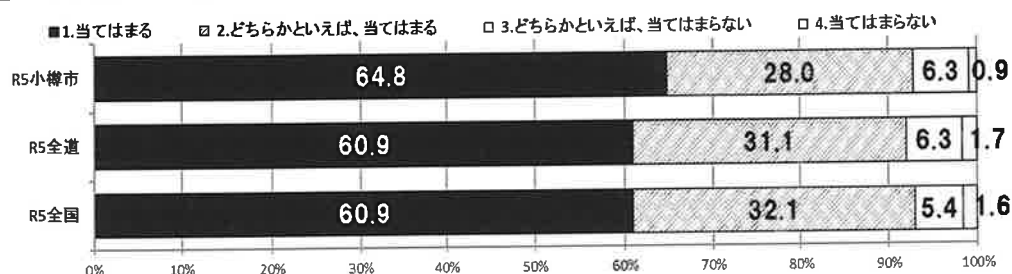
9 先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか。

※「その他」「無回答」の数値は記載しておりません。

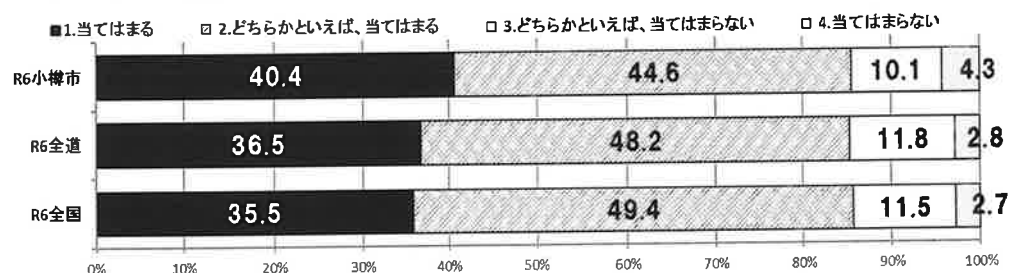
【小学校】＜令和6年度＞



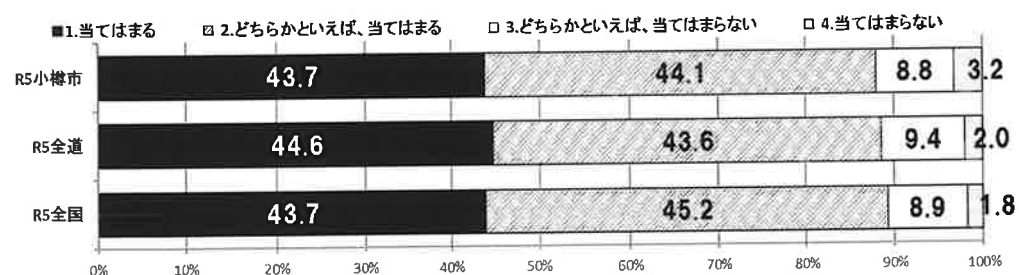
【小学校】＜令和5年度＞



【中学校】＜令和6年度＞



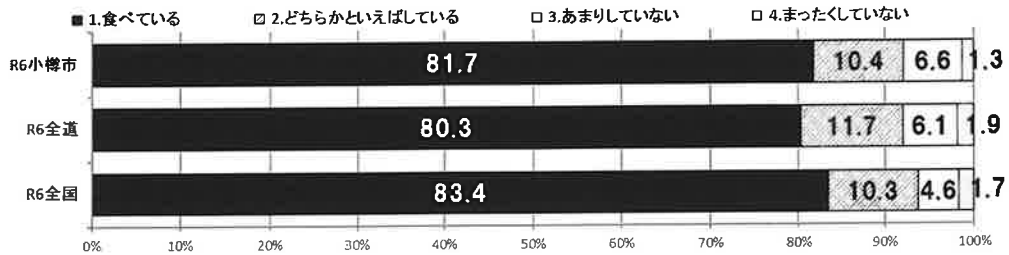
【中学校】＜令和5年度＞



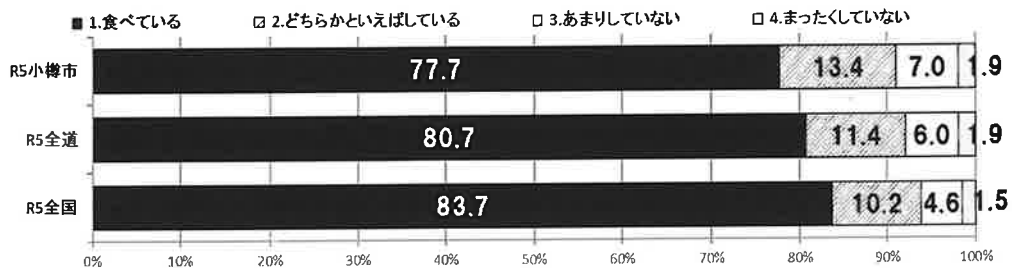
- ・小学校は、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の割合が、90.6%で、全国（87.9%）と比べ、2.7ポイント、中学校は、85.0%で、全国（84.9%）と比べ0.1ポイント高くなっています。
- ・多くの児童生徒が「分かるまで教えてくれている」と実感していることから、引き続き「わかる」「できる」授業の実現に向け授業改善を進めるとともに、一人一人の学習状況に応じたきめ細かな指導を継続していくことが大切です。

10 朝食を毎日食べていますか。 ※「その他」「無回答」の数値は記載しておりません。

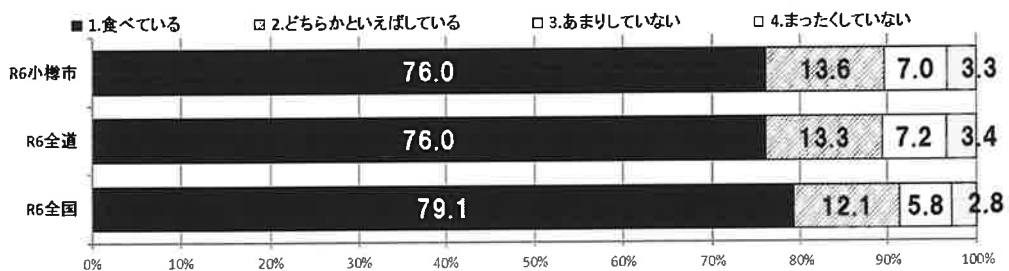
【小学校】＜令和6年度＞



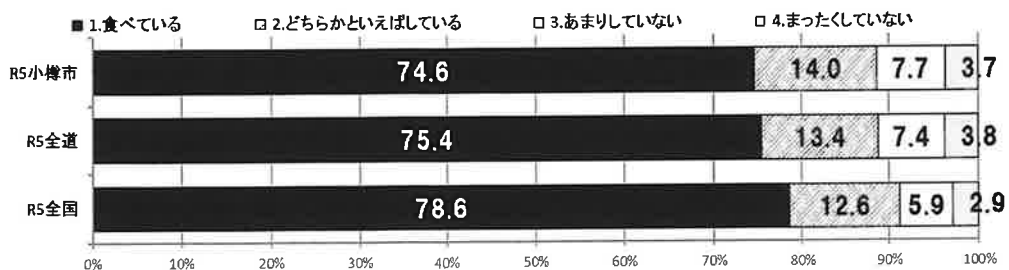
【小学校】＜令和5年度＞



【中学校】＜令和6年度＞



【中学校】＜令和5年度＞

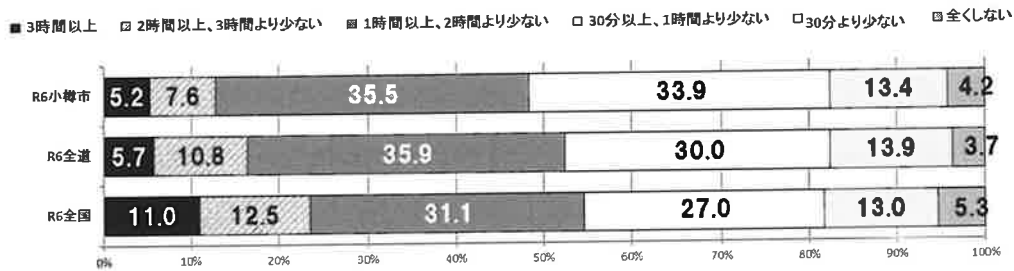


- ・「食べている」割合は令和5年度より、小学校で4.0ポイント、中学校で1.4ポイント高くなっておりませんが、全国と比べると低くなっています。
- ・毎日を元気に過ごすためには、早寝早起きや、朝食を食べることが大切であることから、引き続き家庭との連携を強化し、望ましい生活習慣を確立していく必要があります。

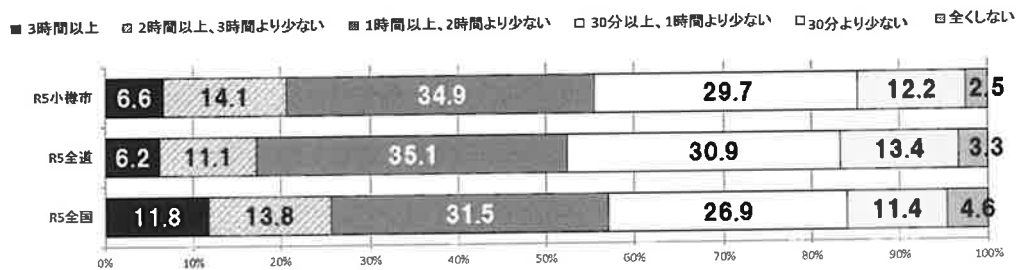
11 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）。

※「その他」「無回答」の数値は記載していません。

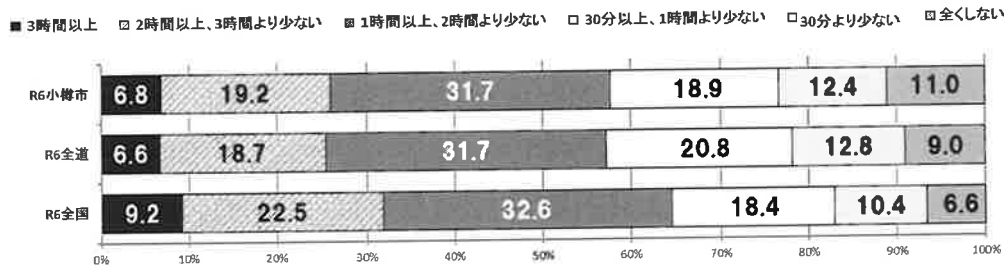
【小学校】＜令和6年度＞



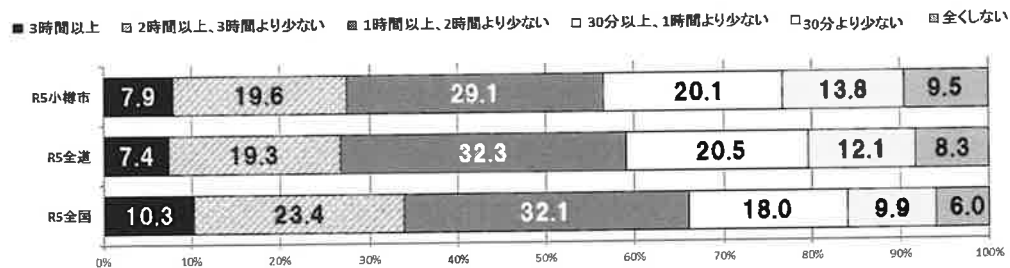
【小学校】＜令和5年度＞



【中学校】＜令和6年度＞



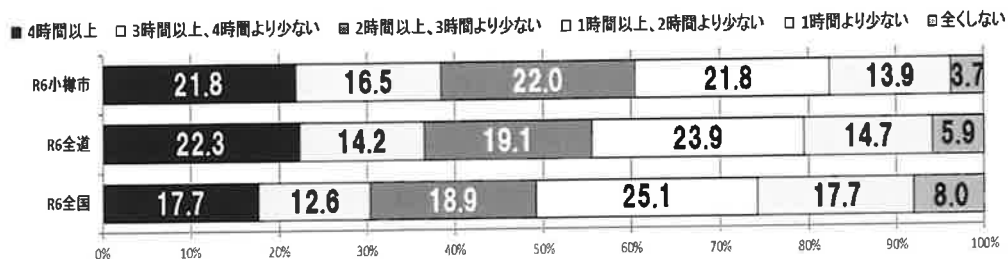
【中学校】＜令和5年度＞



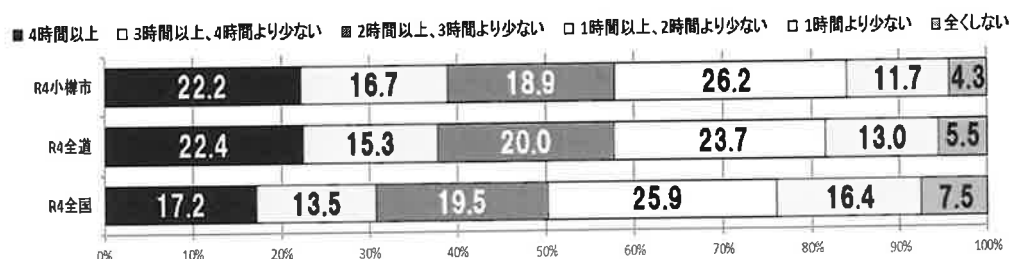
- ・ 小学校で「1日に1時間以上勉強する」割合は48.3%で、全国（54.6%）と比べ、6.3ポイント低く、中学校で「1日に2時間以上勉強する」割合は26.0%で、全国（31.7%）と比べ、5.7ポイント低くなっています。
- ・ 小・中ともに全国を下回っており、学校と家庭が協力した取組を進める必要があります。

12 普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか。
 ※「その他」「無回答」の数値は記載していません。

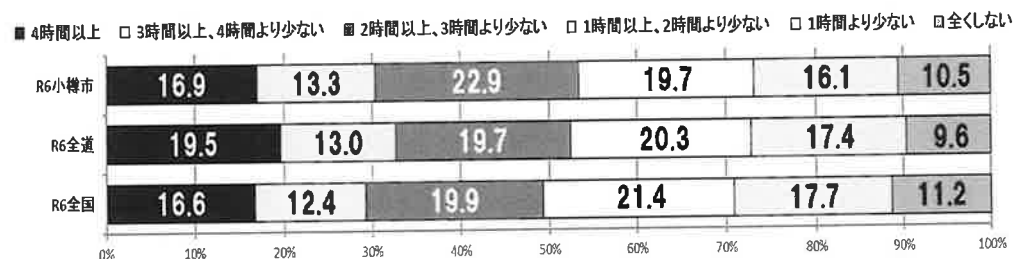
【小学校】＜令和6年度＞



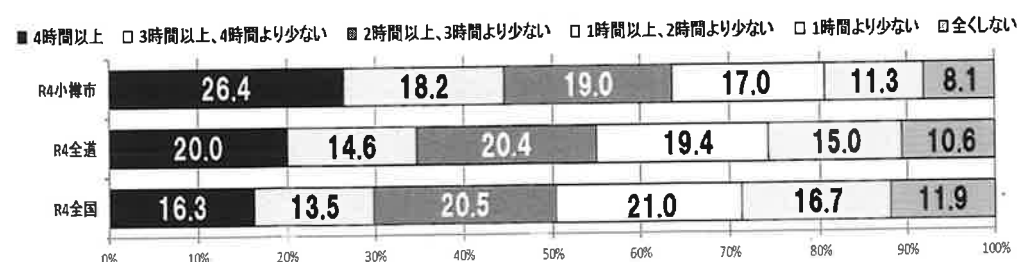
【小学校】＜令和4年度＞※令和5年度は質問項目にないため、令和4年度との比較となります。



【中学校】＜令和6年度＞



【中学校】＜令和4年度＞※令和5年度は質問項目にないため、令和4年度との比較となります。

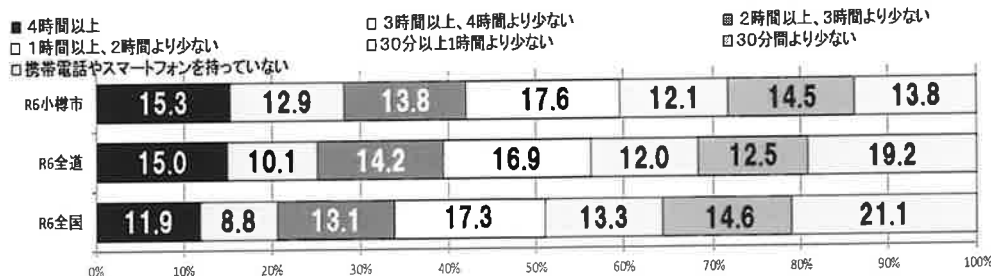


- ・「4時間以上している」割合は、全国に比べ小学校は4.1ポイント、中学校は0.3ポイント高くなっています。また、「1時間より少ない」「全くしない」割合は、全国に比べ、小学校は8.1ポイント、中学校は2.3ポイント低くなっています。
- ・学校と家庭が連携しながら、テレビゲームの使用時間を児童生徒が自ら考え、制限するなどの取組を進める必要があります。

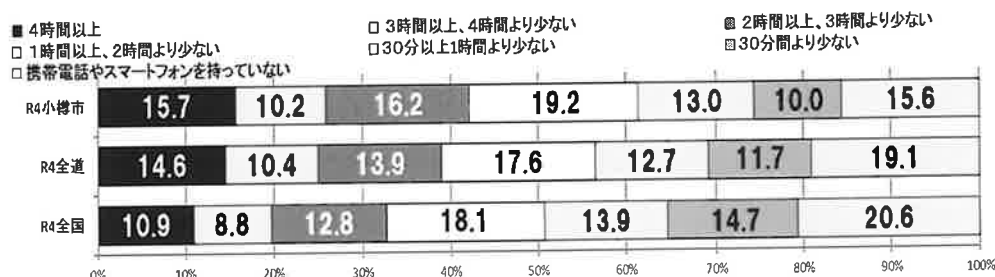
13 普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで SNS や動画視聴などをしますか。（携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームをする時間は除く）

※「その他」「無回答」の数値は記載しておりません。

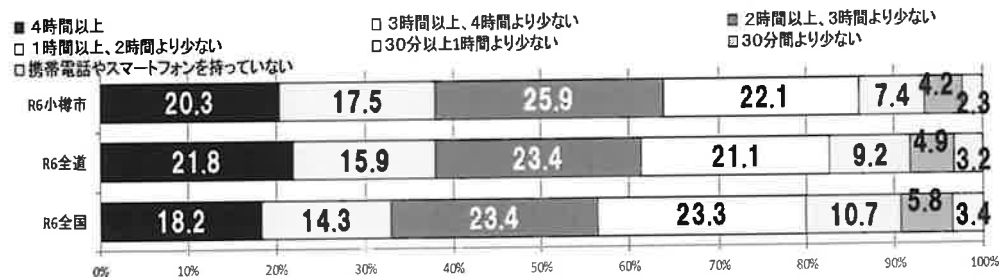
【小学校】＜令和6年度＞



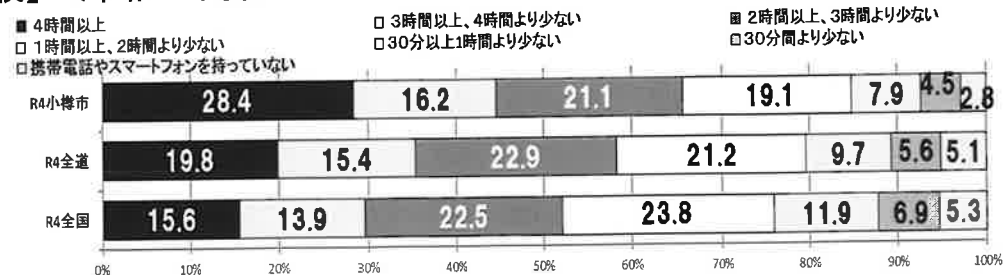
【小学校】＜令和4年度＞※令和5年度は質問項目にないため、令和4年度との比較となります。



【中学校】＜令和6年度＞



【中学校】＜令和4年度＞※令和5年度は質問項目にないため、令和4年度との比較となります。



- ・「4時間以上している」割合は、全国に比べ小学校は3.4ポイント、中学校は2.1ポイント高くなっています。また、「30分より少ない」「携帯電話やスマートフォンを持っていない」割合は、全国に比べ、小学校は7.4ポイント、中学校は2.3ポイント低くなっています。
- ・学校と家庭が連携しながら、SNSや動画視聴について児童生徒が自ら考え、使用時間を制限するなどの取組を進める必要があります。

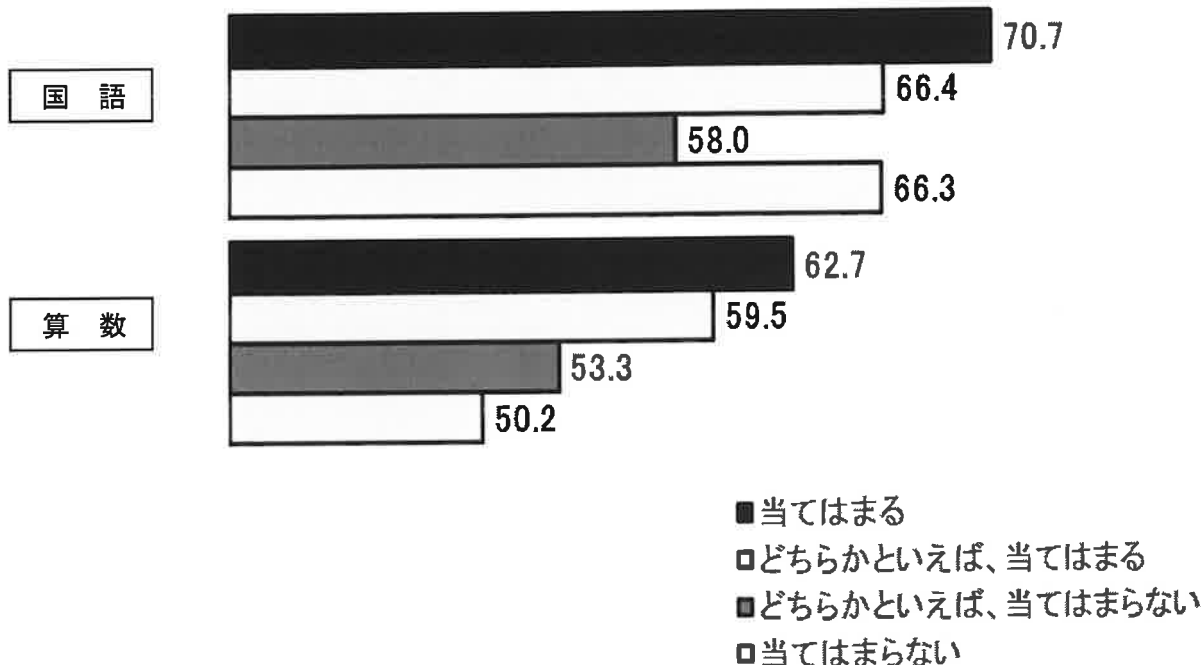
IV 児童生徒質問調査結果と平均正答率との相関

※児童生徒質問調査の回答と各教科の平均正答率との相関について、主なものを掲載しています。

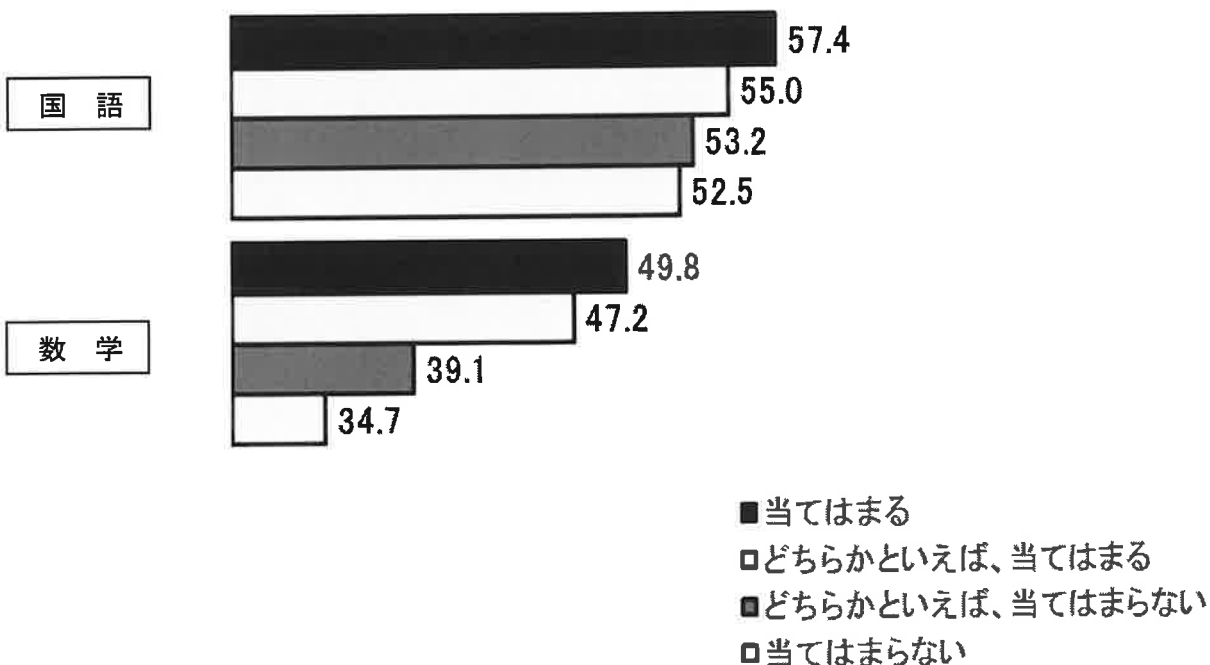
※グラフの数値は、各質問における回答項目ごとの正答率を示しています。

1 「自分には、よいところがあると思いますか」との質問に肯定的に回答した児童生徒ほど、平均正答率は高い傾向にあります。

【小学校】

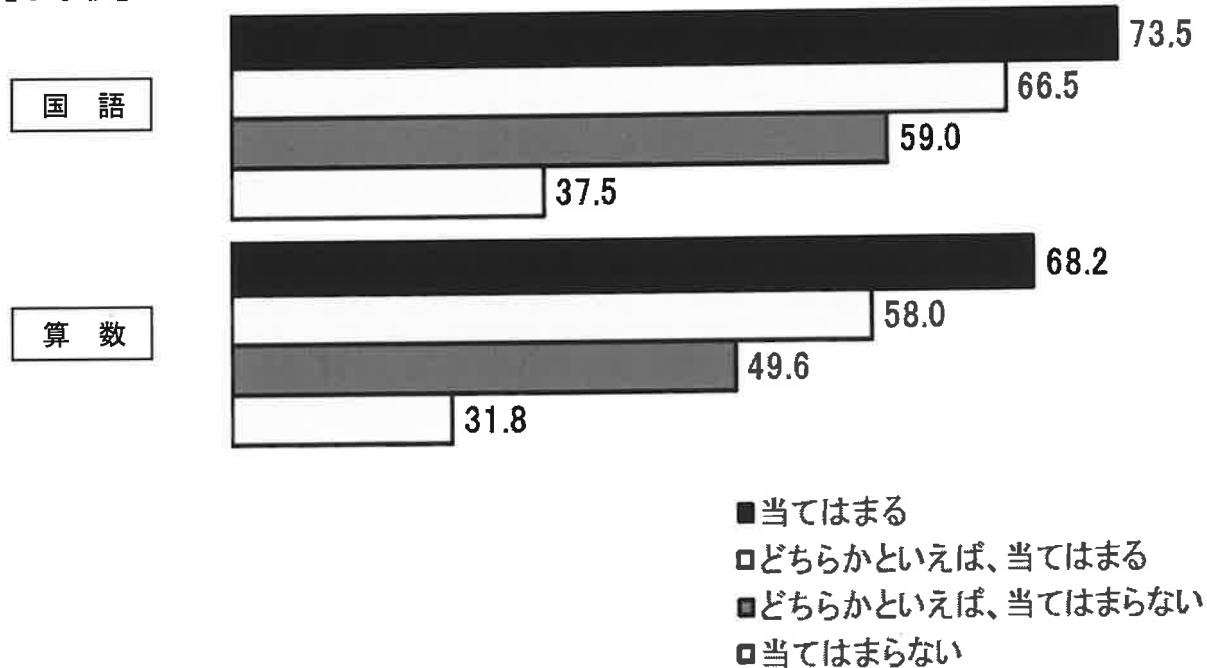


【中学校】

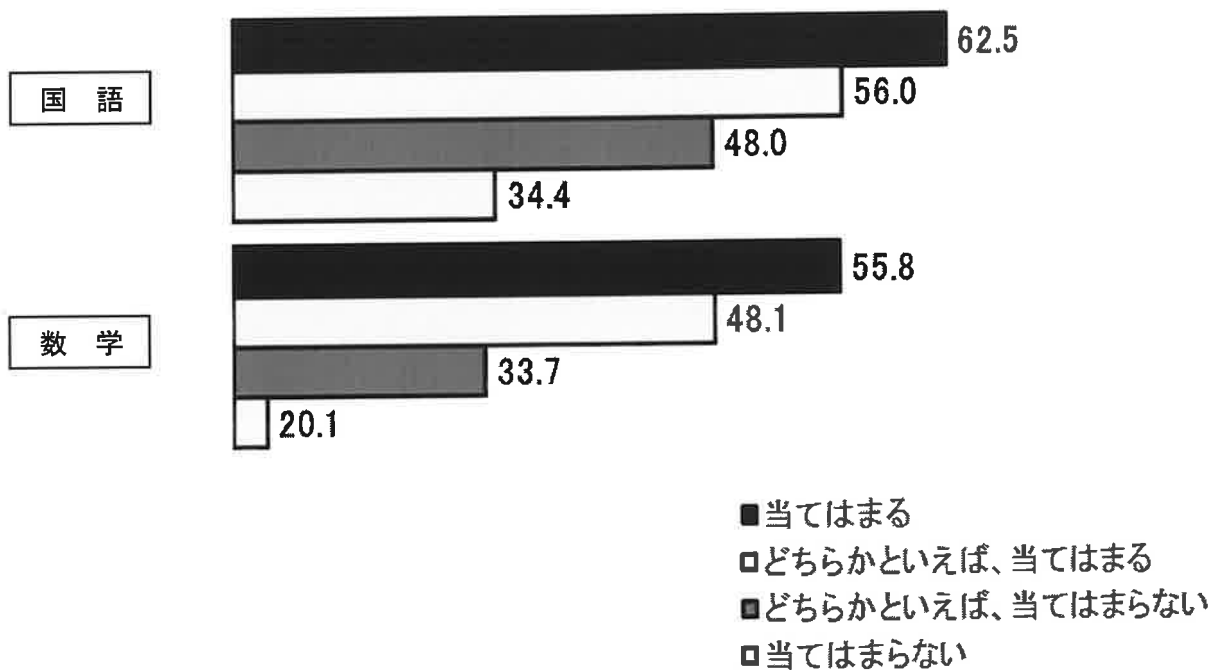


2 「5年生まで（中学校は1、2年生のとき）に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」との質問に肯定的に回答した児童生徒ほど、平均正答率が高い傾向にあります。

【小学校】

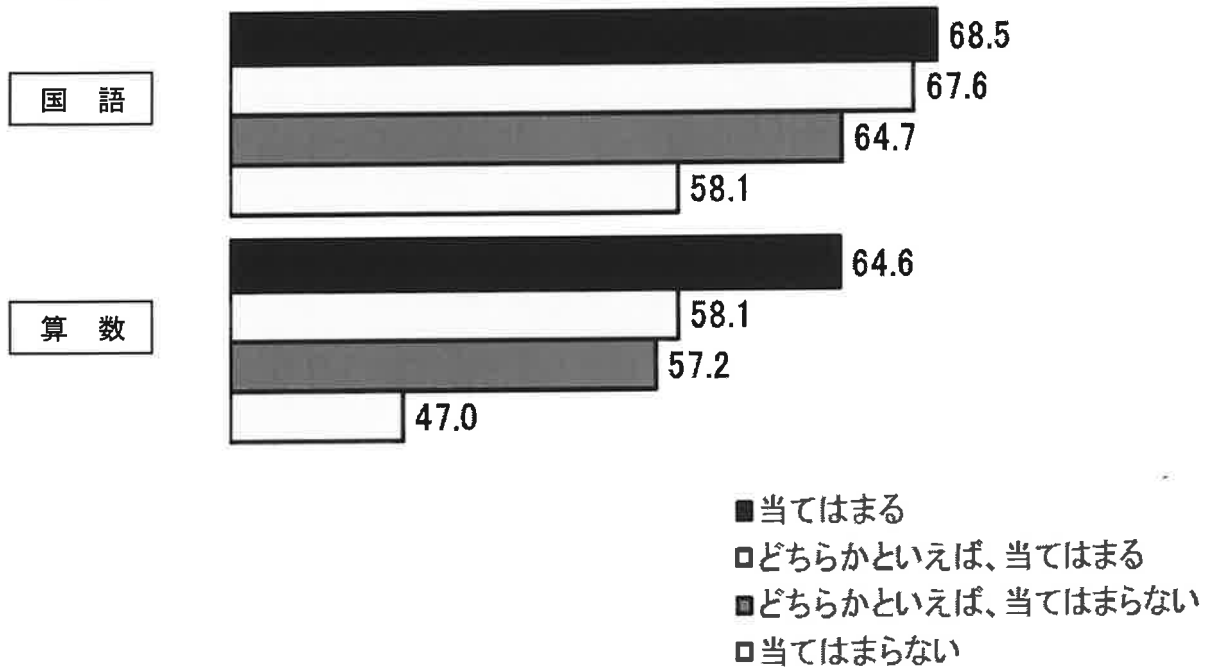


【中学校】

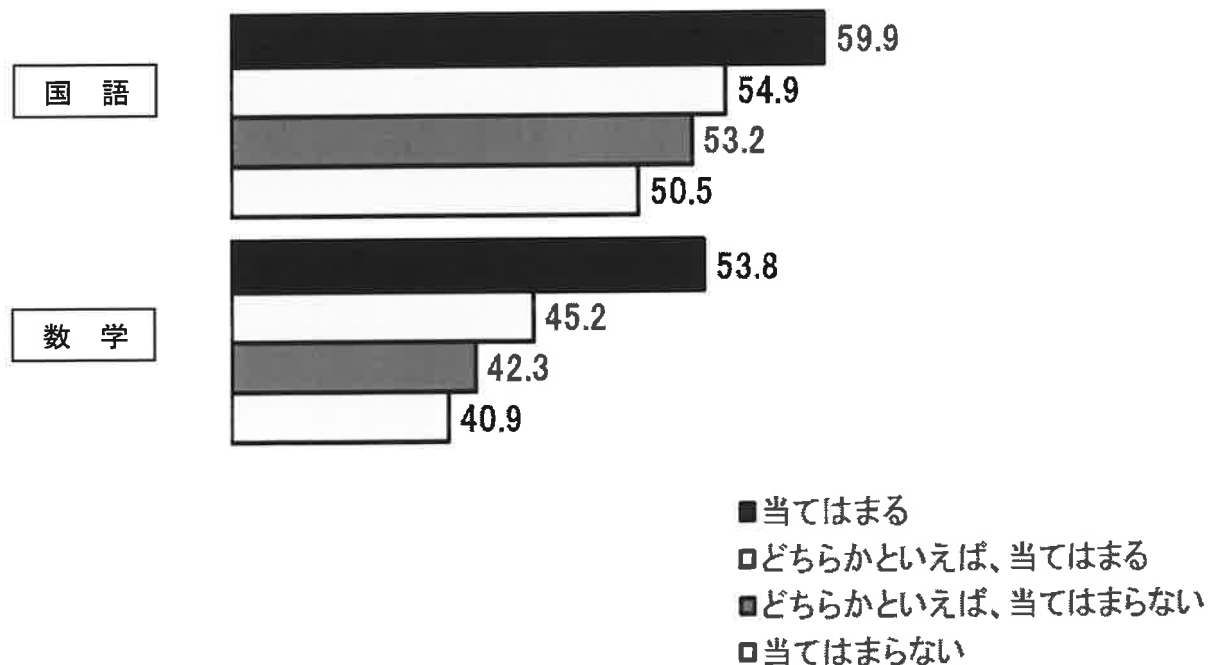


3 「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」との質問に肯定的に回答した児童生徒ほど、平均正答率が高い傾向にあります。

【小学校】

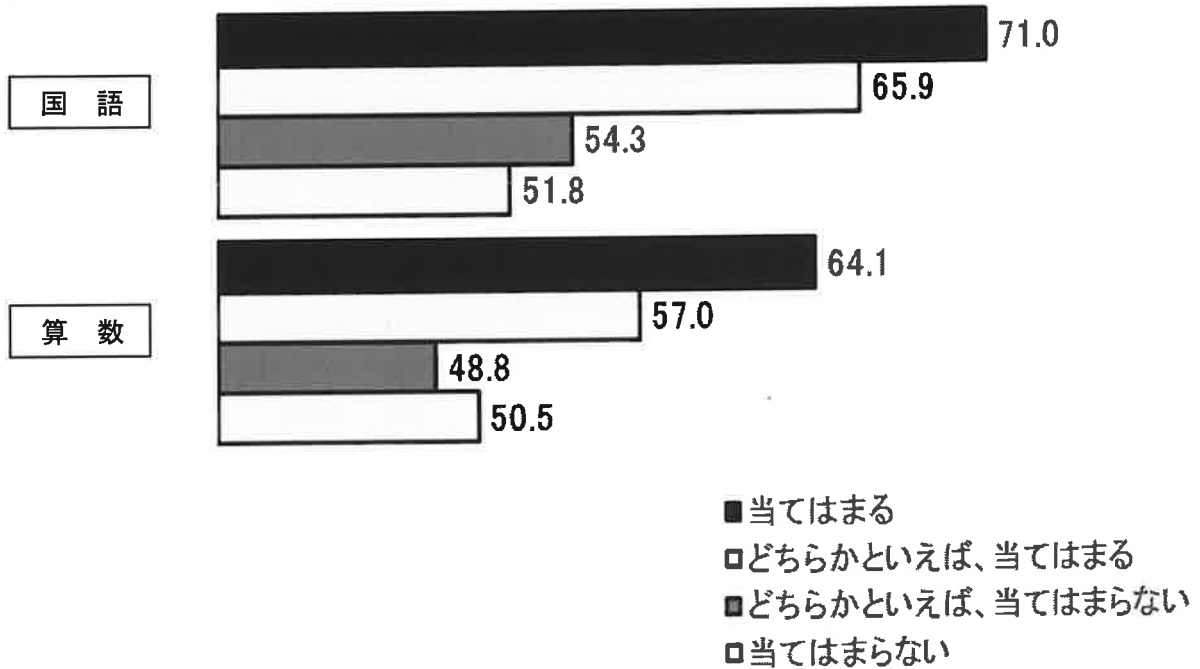


【中学校】

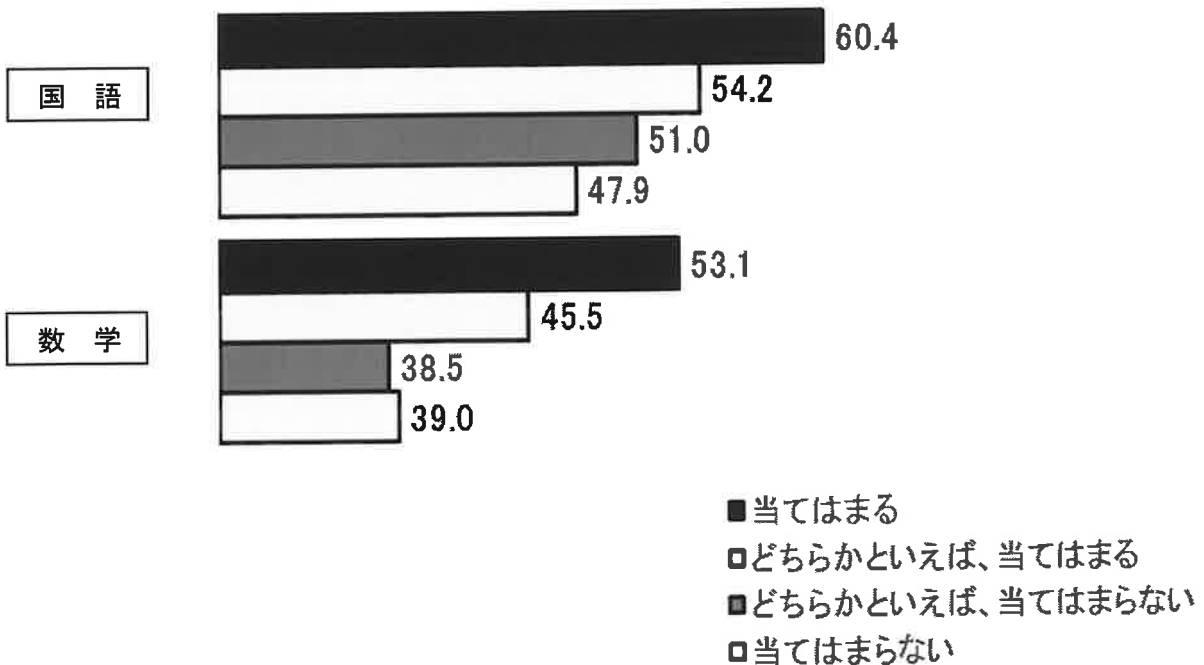


4 「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」との質問に肯定的に回答した児童生徒ほど、平均正答率の高い傾向にあります。

【小学校】

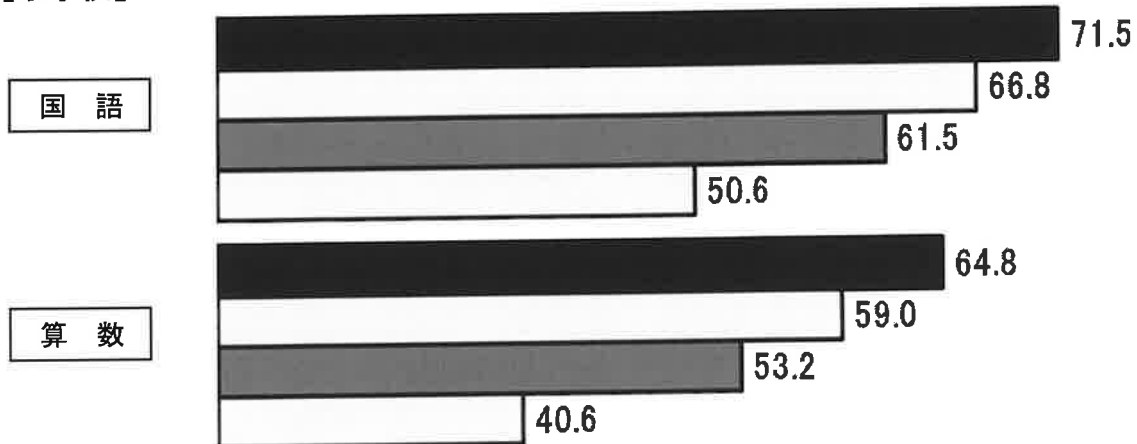


【中学校】



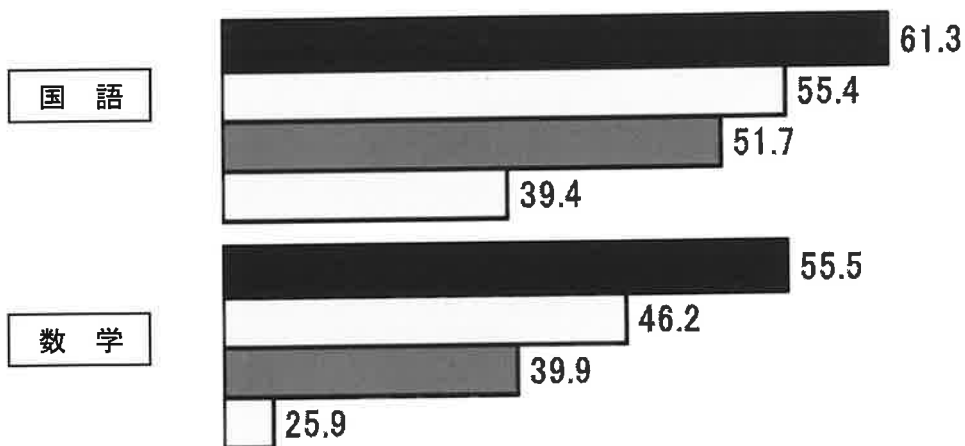
5 「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」との質問に肯定的に回答した児童生徒ほど、平均正答率が高い傾向にあります。

【小学校】



- 当てはまる
- どちらかといえば、当てはまる
- どちらかといえば、当てはまらない
- 当てはまらない

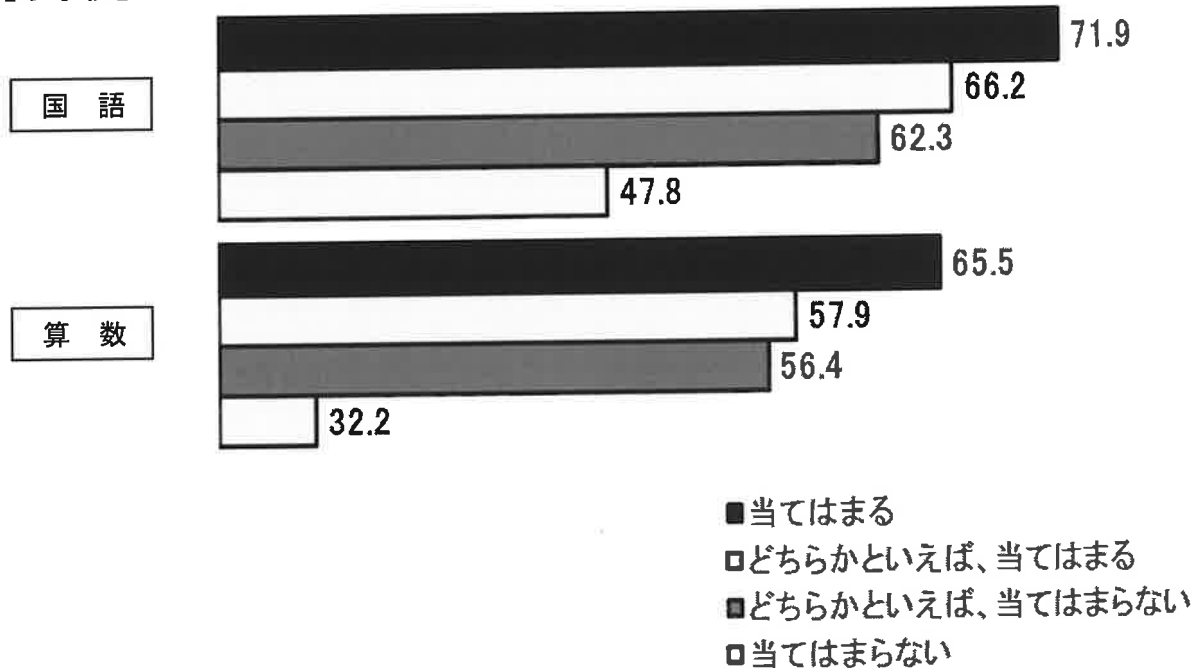
【中学校】



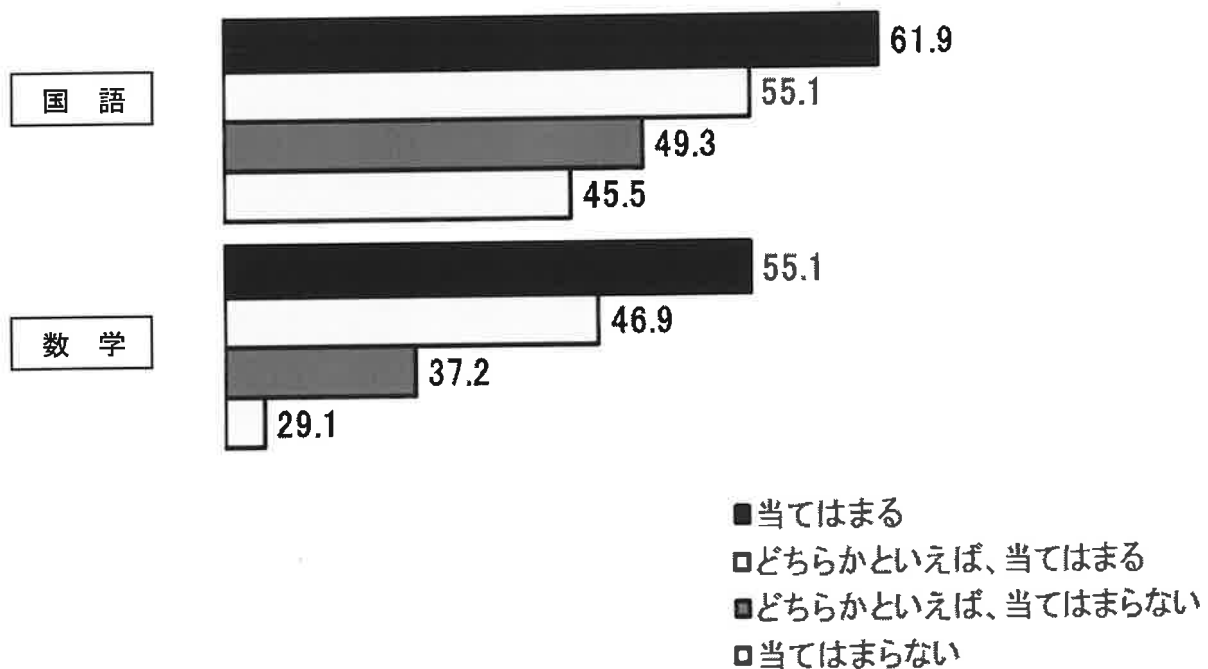
- 当てはまる
- どちらかといえば、当てはまる
- どちらかといえば、当てはまらない
- 当てはまらない

6 「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか」との質問に肯定的に回答した児童生徒ほど、平均正答率が高い傾向にあります。

【小学校】

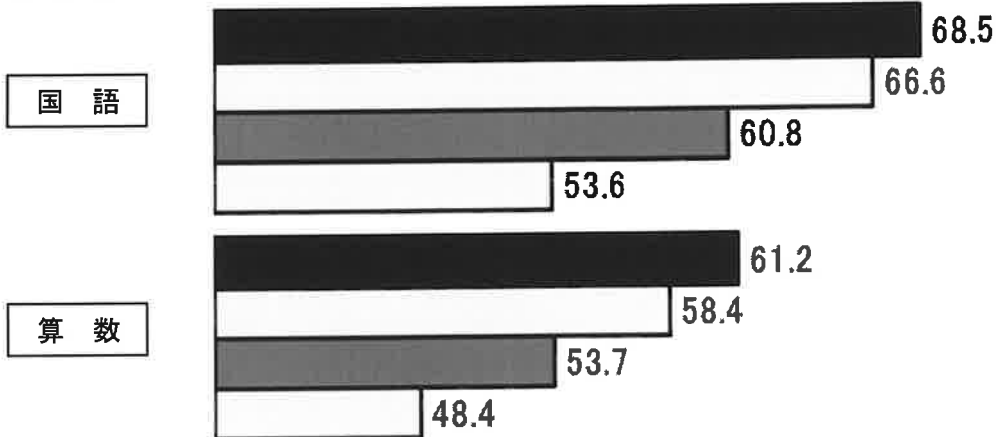


【中学校】



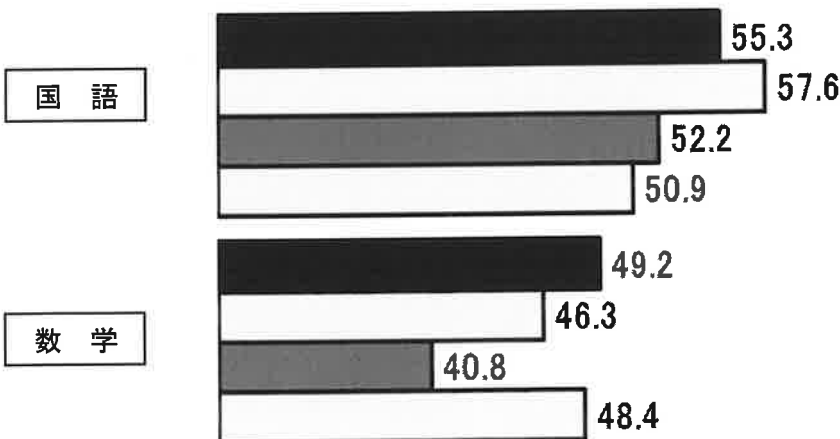
7 「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか」との質問に肯定的に回答した児童生徒ほど、平均正答率が高い傾向にあります。

【小学校】



- 当てはまる
- どちらかといえば、当てはまる
- どちらかといえば、当てはまらない
- 当てはまらない

【中学校】



- 当てはまる
- どちらかといえば、当てはまる
- どちらかといえば、当てはまらない
- 当てはまらない

V 令和6年度全国学力・学習状況調査の結果を受けた取組

各学校の取組

1 授業改善の推進

「小樽授業づくりの5つのSTEP!!」に基づき、子どもが主体的に学び、考え、表現する場面を位置付けた授業を日常的に行います。

2 1人1台端末等 ICT 機器の効果的な活用

指導過程の中で端末等を活用する場面を校内で統一し、日常的・効果的に1人1台端末等を活用した授業を行うなど、指導方法の工夫改善を進めます。

3 家庭学習の習慣化に向けた取組

家庭学習時間を増やすために、国語と英語の音読に確実に取り組むとともに、必ず課題を出し、児童生徒が「学年×10分+10分」以上、その日に学習した内容の復習や学習の定着に課題が見られる内容などに繰り返し取り組ませ、必ず土日も勉強する時間を設けます。

4 生活習慣の改善に向けた取組

「おたるスマート7 (セブン)」に基づき、スマホ等の使用時間の減少に向け家庭に協力を依頼するとともに、「生活習慣スケジュール表」などを活用し、子どもの生活習慣の改善に向けた意識を高めるように指導します。

市教委の取組

1 小樽市小中学校学力向上検討委員会の取組

定着に課題が見られる内容や領域の解決に向けた検討を行うとともに、学力向上実践交流会を開催するなどして、「小樽授業づくりの5つのSTEP!!」に基づいた授業改善を推進します。

2 各学校における1人1台端末に係る取組の周知

1人1台端末を活用した授業改善の取組で、成果を上げている学校の事例を小樽市情報化推進会議等で周知するなどして、各学校の取組の充実を図ります。

3 授業改善に資する教員向け研修会の開催

外部講師を招聘した授業改善に資する研修会（国語、算数・数学、理科、体育、外国語）やICT活用に関する研修会を開催するなどして教員の指導力向上を図ります。

4 学校訪問による個別の指導助言

各学校の課題と取組を把握し、学級づくり及び学力向上のための指導改善に向けて、個別に学校を訪問して指導助言をします。

5 学習習慣及び生活習慣の改善に向けた取組

家庭学習の習慣化と生活習慣の改善に向け、保護者及び児童生徒向けの啓発資料を作成し配付するとともに、成果を上げている学校の事例を周知し、学習習慣等の改善を図ります。

小樽授業づくりの5つのSTEP!!

「子どもが主体的に学ぶ授業」

基盤

安心して学べる学級づくり

- ① 自己存在感の感受 ② 共感的な人間関係の育成
- ③ 自己決定の場の提供 ④ 安全・安心な風土の醸成

単元構成

I 単元及び本時の目標と評価規準を明確にする

授業者は、単元を通して子どもにどのような力を身に付けさせたいかを明確にし、各時間における評価規準と評価の場面・方法を明らかにすることで、目標と指導と評価の一体化を図ることができます。

II 本時の課題をつかみ、学習の見通しをもつ

本時の目標を子ども自身が自分事として捉えることができるよう、課題設定や発問等を工夫することで、子どもが学習の見通しを持ち、主体的に学ぶことができます。

III 主体的に、課題解決に向かう



自分の考えをもつ



対話を通して考えを深める



授業者の一方的な説明ばかりではなく、子ども自身が「どのように学ぶか」を選択したり、自己決定したりする場を設定することで、主体的に学ぶことができます。

IV 学びの足跡を残す（ノート・端末）

学習の過程が分かるようなノート指導を行うとともに、端末を活用して学習の記録を蓄積していくことで、学んだことを振り返ることができ、学習内容の定着につながります。

V 学んだことを振り返る

学習した内容を振り返ることで、「何が身に付いたか」を子ども自身が認識するとともに、次の学習の見通しや生活場面への転換など、学びを深めたり、広げたりすることができます。

学習における1人1台端末の活用例

前時までの振り返り

- ・Classroom
- ・チャット
- ・撮影した板書
- ・スクリーンショットした画像

教材の提示

- ・スライド
- ・classroom 課題一斉配付
- ・画像等を提示

調査活動

- ・Google 検索
- ・Google meet
- ・思考を深める
- ・デジタル教材表現・制作
- ・スライド
- ・サイト

他者参照

- ・スプレッドシート
- ・スライド
- ・Canva
- ・発表・話し合い
- ・ドキュメント
- ・スライド

協働での意見整理

- ・スライド
- ・チャット
- ・Classroom
- ・Canva

個に応じた学習

- ・デジタルドリル
- ・学習過程を蓄積
- ・カメラ機能
- ・スクリーンショット

振り返りの共有

- ・チャット
- ・Classroom
- ・スプレッドシート

授業展開

家庭学習の充実

「学年×10分+10分」以上
(中学1年生は「第7学年」とする)

- 宿題（音読、漢字、計算、自主学習ノート等）の出し方について、学校全体や学年、教科間で共通理解を図る。
- 家庭と連携し、達成感や自己肯定感を高めるための児童生徒への働きかけ（励ましやコメントなど）を意識する。
- Chromebook を持ち帰り、復習や定着に課題が見られる内容に繰り返し取り組む。

家庭学習

- ・デジタルドリル
- ・スライド
- ・Classroom
- ・ドキュメント